

桂新案 日用辭典 大町 桂月 五三 小 六三 盛陽堂 〇八〇 語學 日本語—字書
 音と畫とより引くを得、又地名人名の如きは訓方書方の兩方より引くを得るが新案なりと云ふ。
 新撰 敘事文講話 佐々 政一 五二 小 四〇 育英書院 一〇〇 語學 日本語—作文
 敘事文の主想觀察點其他を説明し模範文を擧げたり。
 新土木工學全書 第四卷 中 村合 猪市 五三 一 中 五〇 工學社 三〇 工學 土木工學
 本卷にては鐵道、施工法、森林土木、架空索道等を講ず。
 新實用日本文典 岡田 正美 五二 一 中 六〇 金港堂 一〇 語學 日本語—文典
 實用を旨とし簡易平明に記述す。
 征 空尾崎 行輝 五三 小 三四 武俠世界社 一三〇 工學 空中飛行機
 飛行船、飛行機、發動機、飛行術等に就て興味中心の説明を試みたるもの、繪多し。
 西洋音樂史 綱富 尾木 知佳 五二 小 七四 共益商社 三〇 美術 音樂—史傳
 東京音樂學校に於ける著者の講義を基礎とす。
 西洋通史 下卷 瀨川 秀雄 五二 小 四六 富山房 一六 歴史 西洋歴史
 本卷は最近世史なり、即ち一七八八年のベルリン公會に始まり日本の歐洲戰爭参加に終る。
 染色の原理と實際 小林 庸吉 五三 小 二〇〇 育英書院 〇六 工業 染色
 理論と實際とを調和し實行し得る範圍を標準として記述せり。
 前途の望 澤柳 政太郎 五三 小 三〇 廣文堂 一〇 倫理 教訓
 我國の前途を望みて青年の努力奮起を促したるもの。
 宗達と光琳(美術叢書) 春山 武松 五三 一 中 一〇八 美術叢書刊行會 〇五 美術 宗達 光琳
 宗達と光琳を簡明に論述す。

△續 史的 研究 史學研究會編 五二 一 中 三七 富山房 一四 歴史 歷史

幣原坦氏の倭寇に就て其他四篇の講演を集む。
 粗食蠻 勇 生 活 井上 正賀 五三 一 小 三四 東亞堂 〇八〇 醫學 飲食 食物
 著者の實行せる粗食主義を鼓吹せり。
 大正秀才文集 第二集 友田 宜剛 編 五二 小 四〇 金港堂 〇五 語學 日本語—作文
 中學生等の作文を集めたるもの。
 代數は斯の如く解義せよ 下卷 眞邊 仙一 五三 小 五八 敬文館 〇六 數學 代數
 本卷には乘法より歩合算までを解義す。
 武田 裁 縫 書 武田 太郎 吉 五二 二 中 六五 富山房 三四 家事 裁縫
 著者多年の實地經驗を基とし現今家庭に必用なる衣服の裁縫を説きたり。
 珠算 通解 石橋 梅吉 五二 小 三四 文陽堂 〇七 數學 珠算
 速算及實用計算に習熟せしむる目的を以て編纂せるもの。
 忠勇講(教訓叢書) 足立 栗園 五三 小 三四 文陽堂 〇五 倫理 教訓
 忠勇の本義を説明し事蹟と訓言とを掲ぐ。
 通禪道 講 話 宮 英宗 五二 小 三六 光融館 一〇〇 宗教 禪
 京都六角會館に於ける著者の十回に亘る講演を筆記したるもの。
 增補 牛全集 第五卷 想華及小品 高山 林次郎 五三 一 小 七三 博文館 一〇 叢書 高山 樗牛
 小説春日芳艸之夢其他新に發見したる遺稿多し。

徒然草 新釋 青野保太郎 五二 中の 一〇〇 有精堂 〇〇〇 文學 日本文學
 難解の語句を註釋し龍頭に大意を示せり。
 註帝 範 臣 軌 松本豊多 五三 中の 一三三 嵩山房 〇七〇 倫理 教訓
 帝範は唐の太宗文皇帝が修身治國の道を典籍中より採輯したるもの、臣軌は高宗皇帝の皇后たる則天武氏が下たる者の上に事ふる百規を蒐録したるものなり。

哲學と文藝 桑木殿翼 五三 中の 三四 實業之日本社 二二〇 哲學 哲學—雜
 科學と哲學、社頭杉、古代研究と思想問題、文藝の影響其他の論文を集む。

天才と遺傳 英、ゴルトン 五三 中の 六七 早稻田大學 二八五 心理 天才
 英國に於ける實例を多く擧げて、天才と遺傳との關係を研究したるもの。

東洋畫論 成今關壽麿編 五二 中の 二二三 讀畫書院 八〇〇 美術 繪畫
 王維の畫學、秘訣、張彥遠の歷代名畫記其他數十種の書を和譯して編輯せるもの。

東洋歴史講義 下卷 河野元三 五二 中の 四三三 芳流堂 二六〇 歴史 東洋歴史
 本卷は近古期及近世期なり、數葉の圖を挿めり。

トリス トイ 佛、ロオラン 五三 中の 三三〇 新潮社 〇九五 傳記 トルストイ
 幼年時代よりの生ひ立ちを説き其著書を透して人物を評論せり。

日本鑛石學 第一卷 炭層 岩崎重三 四版 中の 一五三 老鶴園 三六〇 理學 石炭
 全部を改版し石炭層、炭田の記事等をも加へたり。

模範俳句 大成 沼波武夫編 再版 中の 四九三 東亞堂 一五五 文學 俳諧
 名家俳句の時代より明治に至る大家百餘名の作句を蒐集す。

田園花と人生 天野藤男 五三 中の 三七七 洛陽堂 二二〇 文學 花
 多くの花を咲く時期によりて分類し其趣味を宣傳せんとなす。

富嶽詩集 小西古香編 五二 中の 一五五 東京堂 〇〇〇 文學 支那文學—詩集
 富嶽に關する詩を蒐むること三百餘種總て故人の作にして元中五年より大正元年に至る。

縮刷蕪村遺稿講義 正岡子規等 五三 中の 一三三 蕪山書店 三〇〇 文學 俳諧
 蕪村句集、蕪村遺稿の兩講義を縮刷合本したるもの、講述者は子規、鳴雪、碧梧桐、虛子等なり。

△ブ ラ グ マ テ イ ズ ム 英、シラ 田制佐重 譯 五三 中の 六三三 早稲田文學 三〇〇 哲學 哲學
 人間本位主義の研究となす。

平面三角法精解 有賀午之丞 五二 中の 一五五 晉文館 〇九五 數學 三角法
 各種高等專問學校入學試験に應ぜんとする者の爲に難問を解釋したるもの。

迷信と宗教 (大正名著文庫 第二十四編) 井上圓了 五三 中の 四〇〇 至誠堂 二二〇 宗教 迷信
 有害なる迷信を排して正しき信仰の必要を説く、平易通俗を旨とし引例多し。

政治野聲 永井柳太郎 五二 中の 三〇五 莫哀社 〇九五 政治 政治—論說
 内治、外交に關する論文を集む。

感覺的指算教授法 新免恭三 五三 中の 三三四 弘道館 一〇〇 數學 算術
 指を以て必然的の計數器なりと判斷し、指算の教授法を論ず。

謠曲手ほどき 正田梅香 五三 中の 三七七 東亞堂 一三〇 諸藝 謠曲
 初心者之道しるべなり。

世の外 (禪道叢書) 釋宗演 五三 中の 一三三 光融館 〇八〇 宗教 禪
 著者最近の講演と説話を筆記編纂したるものなり。

高等力學講義 義田中三四郎 五三 中の 六六〇 芳流堂 三〇〇 工學 力學
 中等程度の物理學を修めたる人々の爲に其基礎學科たる力學を解説したるもの。

英文和譯の基礎 井上 彰 五三 小の 二七 有精堂 〇五 語學 英語—英文和譯
高等諸學校受験生の參考用。

歐洲政界奇談 英、アロキッチ 郡山經堂譯 五四 小の 三三 至誠堂 一〇〇 政治 治—雜
倫敦タイムスの巴里通信員たる著者の回想記より政治外交に關係ある部分のみ翻譯す。

歐洲戰爭日録評論 第二卷 三宅覺太郎 五三 一中 八一 報効學會 二五 兵事 歐洲戰亂
千九百十五年一月より六月末に至る日日の戰況を評論したり。

奧の細道 新釋 荻原井泉水 五四 一小 一〇 抒情詩社 〇三 文學 俳諧
評論を交へて奧の細道に現れたる俳句を解釋す。

面白き英語の手紙 桑田春風編 再版 五四 一小 一四 富山房 一〇〇 語學 英語—作文
英米人の書きたる面白き手紙を集め西洋郵便切手の話を附す。

最近の科學 音樂の原理 田邊 尙雄 五四 小の 五七 老鶴園 二〇〇 美術 音樂
より見たる 音響と音階のことを平易の文章にて説明せり。

問題 化學解法講義 池田 清 五四 小の 八八 高岡書店 一五 理學 化學
先づ物質の製法、性質等を説明し次に入學試驗問題等を詳解せり。

化學史及化學大家傳 久木田隊伍 五四 一中 一八一 多良木出版所 〇五 理學 化學—史傳
原子量、化學記號其他化學一般の進歩と變革とを叙しそれ—關係ある大家を略傳す。

玩味點を 高等小學兒童文集 池田彌一郎編 五四 小の 三六 精文館 〇五 語學 日本語—作文
明にせる 教師の教授用として又兒童の參考用としても可なり。

幾何學研究と受験新法 松岡文太郎 五四 小の 五〇 文魁堂 二一〇 數學 幾何學
幾何學の速成法、理解法、研究の方針、受験の要領を明かにす。

氣象學 講話 岡田 武松 四版 五三 一中 三四 丸善 一〇 理學 氣象學
大氣、溫度、濕度、氣壓等氣象學の一斑を通俗的に講述す。

客引策と賣出法 清水 正己 五三 一小 三三 佐藤出版部 〇五 商業 商業
割引、景品、福引、見切品、好奇心利用等の客引策、賣出法を講述せり。

教育勅語要解 大内 青樹 五四 一中 三三 明誠館 一〇〇 倫理 教育勅語
佛敎主義の立場より教育勅語を詳細に解説す。

教育道話 第三 安藝 愛山 五四 小の 八六 日本雄辯會 〇三 倫理 教育
通俗平易なる訓話を多く集む。

教授方面の施設 (小學教育實際) 小學教育研究會編 再版 五三 一中 一六 目黒分店 〇六 教育 教授法
各教科目の教授に關する研究施設を論じ各地小學校の實例を擧ぐ。

銀行簿記精義 川口 西三 五四 一中 五四 同文館 二〇〇 產業 簿記
最近銀行間に行はるゝコルマナーの取引、引受手形勘定等に就ても説明せるを特色とす。

近土木學要覽 上卷 長崎 敏音 五三 一小 七三 大倉書店 二五 工學 土木工學
上卷に收むるは測量、製圖法、工業數學、材料、力學並構造等なり。

黒田如水傳 金子堅太郎 五三 一中 七四 博文館 二八〇 傳記 黒田如水
黒田如水を詳傳し問々評論を加ふ。

結婚と安産 産竹中 益之助 五三 一中 二四 博文館 〇六 醫學 婦人科
× 婦女の攝生法、妊娠の養生法、産婦の養生法、褥婦の養生法等に分ち、平易丁寧に説明せり。

傑人佳人大町 桂月 五三 小の 三三 春陽堂 二一〇 傳記 傳記
楠公と諸葛武侯、鎌倉の女性等東洋の傑人佳人数十人を評傳す。

第二現代式廣告文句 井關 十二郎 一八三 佐藤出版部 〇三〇 商業廣告
 前半を著者の自作のみとし後半を諸店の廣告中より最善の句を選み出したるものとす。

劍道 極意 香川 輝 一〇四 中 二九八 大正書院 〇五五 諸藝劍術
 主として伎倆の均等なるものに就て述べ、特に女子に斯道を磨かしむべしと論ぜり。

受驗 綱目式地理概説 橋本 常造 一〇四 小 三九八 文盛堂 〇五〇 地誌地誌
 自然地理、人文地理を系統的に分類解説す、中等程度。

國際法 原論 英、ロ、レ、ン、ス 再版 二〇〇 清水書店 四七〇 法律國際法
 系統的に國際法學の綱領を述ぶ。

國史叢書 千葉傳考記 黒川 眞道編 一〇五 中 四四四 國史研究會 一〇〇 歴史日本歴史
 外四種 千葉傳考記、小田軍記、小田天庵記、房總軍記、里見九代記の五種を收む。

最新英語獨修 若目田 武次 一〇五 小 三二七 博育堂 〇八五 語學英語
 初學者の獨習用として丁寧に語法、熟語其他を説明せり。

最新簿記提要 古館 市太郎 一〇五 中 三三〇 尙文堂 二一〇 産業簿記
 文部省教授要目及全國商業學校學科打合會の決議等を参照し著者が實地教授の經驗を基とせりと云ふ。

佐久間象山言行錄 (修養史傳) 笹井 花明 一〇五 小 一〇六 東亞堂 〇三〇 傳記 佐久間象山
 簡潔に象山の傳記と其偉大なる功績とを叙す。

算術分數 (初等數學叢書) 大塚 祖太郎 一〇五 小 一〇六 大倉書店 〇三〇 數學算術
 四則 (第三編) 淡中 濟 一〇五 小 一〇六 大倉書店 〇三〇 數學算術
 一路の一貫と變化の連續とに十分の注意を拂ひたりと云ふ。

四季家庭園藝 酒井 忠興 一〇五 小 三〇〇 平和出版社 二〇三 農業園藝
 植物數百種の園藝法を簡便に教へたるもの。

△自動艇 艇生島 莊三等 一〇五 中 三五六 大倉書店 三〇〇 工學自動艇
 自動艇の構造及設計、發動器及推進機、快走帆船及競争艇等を説明す。

消夏支 那 中山 成太郎 譯 一〇五 中 三六九 有斐閣 二五〇 地誌支那
 アンドレリス氏の世界貿易地理其他數書を參考して支那、西藏、東蒙古の一般を紹介す。

訂支 那 全圖 東亞同文會 一〇五 中 一〇一 東亞同文會 二〇〇 地誌支那
 支那の現勢を知るを得べし。

△私法論文集 第二卷 松本 燕治 一〇五 中 三七七 巖松堂 二二三 法律法律論說
 本卷も商法に關する論文大部分を占む。

社會力 (大日本學術叢書) 遠藤 隆吉 一〇五 中 三三八 大日本學術協會 一八〇 社會社會
 社會學の中心問題は社會力なりとし其性質等を明かにせり、朝鮮社會發達の由來を附す。

△倍 湫 論 集 鶴澤 總明 一〇五 中 三九七 春秋社 二八〇 法律論說
 過去十餘年間著者の雜誌等に發表せる論文を集めたり、法律に關するもの最多し。

通信小資本成功法 清水 正己 一〇五 小 三三〇 佐藤出版部 〇五〇 商業商業
 大都會及小都會に於ける通信販賣の成功法を説きたるもの。

少年團と青年團 森下 岩太郎 一〇五 小 四二二 文會堂 〇八〇 政治教育少年團團
 歐米の青少年團の沿革現狀を詳説し我國の優良青少年團に及ぼせり。

諸官立學校漢文問題釋義 塚本 哲三 編 一〇五 小 四八八 有朋堂 〇六五 語學漢文
 入學試驗 明治三十五年より大正四年に至る十四年間の入學試験問題を解説す。

シヨールペンハウエルの哲學 大住 嘯風 一〇五 小 二六六 天弦堂 〇六五 哲學哲學
 (近代思潮叢書第十一編) シヨールペンハウエルの認識論、厭世論、解脫論等を簡明に紹介す。

新 獨 逸 尾原亮太郎 五三 中 五八 同文館 二〇〇 政治 獨 逸

獨逸の國體及歴史的觀察、獨逸の統一勢力たる普魯西、内政及經濟政策、外交略及軍制を述ぶ。

新 農 業 氣 象 學 稻垣乙丙 五三 中 八六 博文館 二〇〇 農業 農業氣象學

農業林業養蠶等に關係ある氣象學の應用的方面を詳述す。

△ 社會政策よ 稅 制 問 題 社會政策學會編 五四 中 三九 同文館 二〇〇 財政 租 稅

稅制問題の討議報告及講演を編輯せるもの、社會政策學會論叢の第九とす。

清 貧 論 奥田義人 五三 中 三四 實業之日本社 二〇〇 倫理 教 訓

奢侈贅澤を排し質素勤儉の美風を興さんとす。

△ 生物學と哲學との境 永井潜 五四 中 六三 洛陽堂 二〇〇 理學 生 物 學

生物學を哲學との關係、生活現象等を研究せるもの。

西 洋 史 (自修歴史叢書の内) 横井春野 五三 小 四三 博育堂 一〇〇 歴史 西洋 歴史

獨學にて西洋史の一般に通せんとする者の爲めに平易なる記述を試みたり。

西 洋 美 術 史 (美術叢書第貳輯) 英、アラ、石井直三郎譯 五四 小 三六 向陵社 一〇〇 美術 美術 史 傳

民族移動期を中心としてチュートン民族の美術と工藝を研究したるもの。

禪 と 膽 力 養 成 佛心道人 五三 小 四八 東亞堂 二〇〇 宗教 禪

古今東西の偉人が禪によりて膽力を體得したる實例を多く挙げ具體的に養成法を説明せり。

禪 の 立 場 从 事 (禪道叢書) 鈴木大拙 五三 小 三九 光融館 二〇〇 宗教 禪

如是觀、如是說、如是行に別ち禪を説きたるもの。

贈 位 功 臣 言 行 錄 大日本國民中學會編 五四 小 四八 國民書院 二〇〇 傳記 日 本 人

收むるところ北畠具行、日野邦光、富士名義綱、名和長重以下百餘名。

歴 史 實 話 曾 我 兄 弟 生 立 ち の 記 大庭三郎 五三 小 三三 京橋堂 二〇〇 傳記 曾 我 兄 弟

興味中心主義の書きぶりなり。

四 書 大 學 宇野哲人 五四 中 二二 大同館 二〇〇 哲學 大 學

大學の章句を讀方、字義、通解に分ちて講義す、索引並びに附録として支那哲學に關する論文七篇を添ふ。

大 悟 一 番 中原鄧州 五四 小 三三 實業之日本社 二〇〇 宗教 禪

某所に於て一週間提擧したるものを骨子として編纂す。

大 正 政 局 史 論 徳富猪一郎 再版 五三 中 四三 民友社 二〇〇 政治 政治 史 傳

大正四年八月より同五年二月まで國民新聞に連載せられたるもの。

代 數 學 問 題 解 義 數理研究同志會編 五三 小 二二 文盛堂 一〇〇 數學 代 數 學

現在中等諸學校に多く採用さるゝ教科書の問題を集め之を解説す。

泰 西 の 繪 畫 及 び 彫 刻 繪畫編 洛陽堂編 五四 中 六三 洛陽堂 一〇〇 美術 美 術

本巻には現代の名家即ち佛のルドン、獨のホフマン、塊のクリムト、諸のムンク等の作品を集む。

斷 食 療 法 西川光次郎 五三 小 三三 北文館 〇七五 醫學 治 療

斷食療法を説明し病苦に對する抵抗力を強くすること治療力を盛ならしむることを知らしめんとす。

テ ー プ ル ・ ス ビ ー チ 大日本雄辯會編 五三 小 三三 大日本雄辯會 〇六五 文學 演 說

政治、軍事、商事、運動、社交等に別ちて卓上演説を蒐集す。

△ 鐵 筋 混 凝 土 工 學 阿部美樹志 五四 中 四三 丸善 二〇〇 工學 鐵 筋 混 凝 土

鐵筋混凝土に關する理論を述べ又其應用を示す爲に設計と計算實例を多く掲げたり。

店 員 修 養 ホ ケ ッ ト ブ ッ ク 藤田篤三 五三 小 一六 佐藤出版部 〇八〇 倫理 教 訓

短文を連續して店員の修養に資せんとするもの、行文華麗現代に適應す。

東京の近郊 田山花袋 小の 七二 實業之日本社 一書 地誌 東京近郊
 東京近郊の名所古蹟、地形の状態などを描く、文に興味あり。
 道徳と品性 遠藤隆吉 小の 四一 廣文堂 一書 倫理 修養
 宇宙人生に對する見識、日本道徳、人品等を論ず。
 東都茶會記 第三輯 高橋義雄 中 四九 華文社 一書 諸藝茶の湯
 向島ビクニック茶會、波多野氏初陣茶會等大正四年中の茶會記事を編輯す。
 英米國民教育の比較研究 中島半次郎 中 三七 教育新潮研究會 〇五 教育國民教育
 歐米四ヶ國の國民教育を比較評論し我國々民教育の將來に及ぶ、教育新潮叢書の第二期第六卷なり。
 トルストイ論文集 第一 藝術論 露、トルストイ 小の 五二 早稻田大學 一書 文學 歐米文學
 藝術論はエールマア、モウド氏の英譯より、沙翁論はチエルトコフ氏等の英譯より重譯したりと云ふ。
 ニコニコ論 語 牧野元次郎 小 二八 靜思館 〇七 倫理 修養
 ニコニコ處世法、ニコニコ宗と樂天主義等すべて著者の主義を鼓吹せんとするもの。
 増補二千五百年史 竹越與三郎 中 七〇 西社 二書 歴史 日本歴史
 増補と云ふも最近の事實を加へたるにあらず、徳川幕府の末期を以て終る。
 農閑出鱈月草 (横井時敬) 小の 三六 弘學館 一〇 農業 農業一雜
 數年間日本農業雜誌に連載せられたる農業に關する隨筆中より約五十篇を選みたるもの。
 國定俳句和歌通釋 附俳句入門 佐々 雁雪 小の 三〇 育英書院 〇六 文學 和俳
 國定教科書にある俳句と和歌を平易に解釋したり、俳句入門は口述の筆記あり。
 ハガキの書き方 水野葉舟 小 三二 阿蘭陀書房 〇五 語學 日本語一作文
 趣味あるハガキの書き方を述べたるもの。

×母の道と育兒 竹中鑑之助 中 二四 博文館 〇六 家事 育兒
 小兒の保護、攝養、強壯の法などを説き疾病の手當に及べり。

輓近教育事實の進歩 乙竹岩造 再版 中 四〇 目黒書店 二〇 教育 教育
 輓近伸展の著しき教育事實を闡明す、生活教育の徹底、圖書教育の發達等約二十題あり。

碧巖 物語 蘆津實全 小 一〇 東亞堂 三〇 宗教 禪
 雪竇禪師が拈出せる百則の公案等に著者の批評を加へたるもの。

圓山應舉 (美術叢書) 姑射若冰 小 一〇 美術叢書刊行會 〇五 美術 圓山應舉
 簡單に應舉の傳記を掲げ其時代畫風等を論ず。

滿洲概 要 滿洲會編 小の 二二 滿洲會 一〇 地誌 滿洲
 主として滿洲の交通、殖産、商業に就て詳しく説明を加へたり。

國家の祭祀 千家尊福 中 三三 春陽堂 一書 神道 祭祀
 皇室を中心として營ませらるゝ祭祀、儀禮及國民的記念日等に關する意義次第等を説明す。

民政史 鑑岩田衛 中 三六 富山房 一書 政治 日本
 神代より徳川幕府時代に至る民政施設の發展を考究す。

民法學通論 今井嘉幸 中 六六 有斐閣 三〇 法律 民法
 民法學理の根本的概念を明かにせんとすと云ふ。
 商業繁昌の秘訣 無駄を省く法 佐々木十九 小の 三六 平和出版社 〇八 商業 商業
 主として中流以下の商店經營者の爲に無駄を省く法を説きたるもの。

名流俳話 沼波武夫編 小の 三三 大日本俳諧會 〇六 文學 俳諧
 巖谷小波氏の伯林夏の季節、淡島寒月氏の國の手形其他數十名家の俳話を集む。

拜啓既に再三書面にて申上候通り會計整理の都合之れ有候に付左記の方は大正四年十二月までの本目錄代金を至急御送附被下度候

神戸市中山手通四丁目九〇ノ一	多久 翻譯事務所	福井縣大野郡下味見村	高島 文庫
兵庫縣加古郡高砂町字清水	姫谷 源二	鳥取縣八橋町	藤本 圖書館
茨城縣那珂郡役所内	那珂郡 教育會	島根縣濱田町	濱田 圖書館
三重縣阿山郡上野町	郡立阿山圖書館	山口縣熊毛郡上關村	村上 上關圖書館
同志摩郡役所内	志摩郡 教育會	同玖珂郡藤河村	私立多田 圖書館
同津市丸之内	津市養正高等小學校	同徳山町	兒玉 文庫
愛知縣幡豆郡西尾町	私立岩瀬 文庫	同都濃郡中須村	中須 圖書館
靜岡縣濱松町	濱松 圖書館	福岡縣築上郡役所内	築上郡 教育支會
甲府市舞鶴公園	山梨教育會附屬圖書館	同門司市龍門町	小學校内 圖書館閱覽所
福島縣若松市原之町	星野 善藏	大分縣下毛郡中津町	私立中津 圖書館
同相馬郡中村第一小學校内	圖書 俱樂部	朝鮮京城府廳内	大山 一夫
米澤市立町	盛文堂市川吉藏	滿洲安東	安東 圖書館閱覽場
福井縣三方郡役所内	三方郡立 圖書館	同開原	開原 圖書館閱覽所
同小濱町	私立小濱 圖書館		

大正五年五月十八日印刷納本
 大正五年五月二十日發行
 編輯兼發行者 東京市四谷區谷町一丁目拾八番地 東京市神田區美土代町貳丁目壹番地 東京市神田區美土代町貳丁目壹番地 東京市神田區美土代町貳丁目壹番地
 印刷 東京市神田區美土代町貳丁目壹番地 東京市神田區美土代町貳丁目壹番地 東京市神田區美土代町貳丁目壹番地 東京市神田區美土代町貳丁目壹番地
 發行所 東京市神田區美土代町貳丁目壹番地 東京市神田區美土代町貳丁目壹番地 東京市神田區美土代町貳丁目壹番地 東京市神田區美土代町貳丁目壹番地
 定價一冊 金十錢
 郵稅不要
 (一ヶ月前金壹圓郵稅不要)

日本圖書館協會選定 新刊圖書目錄 第三卷 第六號

第一一般書類

書名	著者名	發行年月	冊數	頁數	發行所	定價	分類	備註
受驗英語書取の新研究	中學英語研究會	五五	小中	一五二	光世館	〇三〇	語學	英語書取
英語書取の諸注意と入學試驗問題とを收む、附録として正誤文例一百題あり。	高橋清三郎	五五	小中	二八五	至文堂	〇八〇	語學	英語作文
英語の構成法より簡易なる文章を作る方法に入り更に高尚なる程度に進む。	片山寛	五五	小中	二八五	至文堂	〇八〇	語學	英語作文
A B C より (學生文庫 第六編)	生田長江	五五	小中	三〇〇	國民書院	〇三五	語學	英語
英語の獨修入門書。								
繪入淨瑠璃	史水谷不倒	五五	三大	三三三	精華書院	四五〇	文學	日本文學
繪入淨瑠璃の沿革を述べたるものにて多くの標本を收めたり。								
鉛筆 筆畫譜 第二	石井柏亭等	五四	一大	三	日本美術學院	〇八〇	美術	畫集
柏亭、弘光氏等の鉛筆畫十二枚を收む、一々解説あり。								
應用英文法新話 第三卷	吉田幾次郎	五四	小中	三三	英語研究社	〇三〇	語學	英語文典
此卷は形容詞に就て平易に講述す。								
英文法の先	生花園兼定	五五	小中	三三	北星堂	〇七〇	語學	英語文法
英文法に關する印象的講述と挿話なりと云ふ。								

△………専門的のもの
 ×………卑近のもの
 ○………一般的なもの
 其他は………一般的なもの
 大 四六二倍以上
 中 菊六列
 小 菊四列
 菊列半載以下

英 雄 史 談 上 田 萬 年 五五 小中 廣 文 堂 一三〇 傳記 傳記—日本人

壇の浦の海戦と源義經、曾我兄弟と源賴朝、文武の名將加藤清正等を収む。

歐洲戰爭の現在及將來 吉 野 作 造 五五 中 實業之日本社 一三〇 政治 歐洲 戰 亂

歐洲戰亂の突發後大正四年の暮に至る間に雜誌等にて發表せる戰局關係の論文を集む。

置 土 産 飯 田 御 世 吉 郎 五五 小中 野島書店(新潟) 〇六〇 隨筆 隨 筆

隨筆なり、老子を論ず、讀書せざる國民、職業と面想、中學の體育、雪中訓、十六兄弟等。

札博士の觀た東海道 米、ス 石 井 眞 峰 譯 一 再版 小中 大日本圖書 一〇〇 地誌 紀行—東海道

著者の東海道旅行日記を和譯したるもの、原文もあり。

織物製造法(實用工藝叢書) 八 木 靜 一 郎 五五 一 中 三六 博文 館 一〇〇 工業 織 物

普通一般の織物製造法を通俗平易に記述したり振假名付。

△解析力學抄(科學名著集) 佛、ラグランジュ 五五 一 中 三三 丸 善 一 吾 理學 力 學

原著者は流體力學等に大なる解析力を奮ひ、一般坐標を力學問題に利用する方法を創案せる人なり。

解剖生理及體 育 川 瀨 元 九 郎 三版 一 中 五〇 老 鶴 圃 三六〇 衛生 體 育

本版には筋の作用する實例、運動の選擇、身體検査に關する注意等を加へたり。

諸官立學校化學模範答案集 柴 田 初 次 郎 五五 一 小 中 三六 寶 永 館 〇〇 理學 化 學

入學試験問題約一千を集めこれを分類して解答を附す。

教科學生の生理衛生 三 省 堂 編 五五 一 小 三三 三 省 堂 〇〇 醫學 衛 生

中等教科書に記載の條目を簡明に網羅せり。

通俗花 鳥 風 月 枝 元 枝 風 編 五五 一 小 中 五五 弘 道 館 〇五 理學 理 學 雜

本多靜六氏の梅の花の話を始め諸大家の科學に關する講話九十題を収む。

家 庭 の 衛 生 大日本實習女學會編 五五 一 小 一七 國民 書院 〇四〇 家事 家 事 衛 生

家庭の日常に於ける衛生に關することを平易に説けるもの。

受驗漢 文 精 解 漢 文 研 究 會 編 五五 一 小 中 五九 光 世 館 〇六 語學 漢 文

日本外史、十八史略、文章軌範、孟子、論語、史記等より抜粹し講義と語句の解釋を附したるもの。

補習用幾何學新講義 第一編 山 北 川 久 五 郎 五五 一 小 中 一五 高 岡 書 店 〇三 數學 幾 何 學

此篇は軌跡問題證明法並軌跡發見法なり。

幾何は斯の如く解義せよ 眞 邊 仙 一 五五 一 小 中 五五 敬 文 館 〇六 數學 幾 何 學

基礎的問題を解義し共通なる性質を有する練習問題を掲げたり。

基 礎 健 康 法 日 比 野 寛 五五 一 小 三三 實業之日本社 〇五 醫學 衛 生

著者の多年實行せる散歩が身心の健康に著大なる効果なるを説きたり。

△銀 行 論 佐 野 善 作 五五 一 中 二九 同 文 館 一八〇 經濟 銀 行

著者の東京高商學生に講述せる稿本を基礎とす。

近 世 支 那 十 講 稻 葉 君 山 五五 一 小 中 四六 文 淵 堂 一五 歷史 支 那

支那近代思想と革新の將來、支那の經學と政治、康熙大帝等十題あり。

△機 械 金 屬 材 料 河 合 匡 五五 一 中 七六 大日本工業學會 四〇〇 工業 金 屬

金屬材料の製造法、品質の良否を知る法等を詳述せり。

△刑 事 訴 訟 法 牧 野 英 一 五五 一 中 三四 有 斐 閣 一〇 法律 刑 事 訴 訟 法

東京帝國大學に於ける大正四年度の講義を筆記せるもの。

△刑 法 原 理 山 岡 萬 之 助 六版 一 中 七四 日 本 大 學 三〇 法律 刑 法

犯罪要素論等に増補を試みたりと云ふ。

現代商業經濟 米、石熊吉譯 五五 一 四三 長書刊行會 二六 商業商業經濟

現代批判 第一輯 田部重治等編 五五 一 四四 不老閣 〇五 哲學哲學

現代名歌 選橋田東聲 五五 小 三〇〇 白日社 〇八五 文學和歌

校歌 ロオマンズ 山口 競 五五 小 二四 實業之日本社 〇五五 文學學校

向 上 論 尾崎行雄 五五 小 二四 國民書院 〇六 倫理教訓

國語解釋要説(高等受驗參考) 叢書 第一編 内海弘藏 五五 小 三三 實文館 〇七五 語學日本語

國際經濟 論 服部文四郎 五五 中 六七 實文館 三〇七 經濟國際經濟

國際公法 論 中村進午 五五 中 一〇〇 清水書店 四〇〇 法律國際法

國史叢書 武田三代軍記外三 黒川眞道編 五五 小 四三 國史研究會 一〇〇 歷史日本歷史

國史正面觀側面觀(歷史講座) 第四編 大森金五郎 五五 小 三三 日本學術普及會 〇八〇 歷史日本歷史雜

問題 國史上より觀たる旅館の發達、天朝時代に於ける兵制の沿革、平家の滅亡と鎌倉の滅亡の三篇を收む。

駒のいなゝゝ 巖谷小波 五五 小 三三 廣文堂 〇九 隨筆隨筆

採鑛設計 計内田鯉五郎 五五 中 三三 博文館 一七 工學採鑛

新株式定期之研究 早阪二菊 四版 五五 中 三八 信義堂 三〇 商業相

最新中等化學通解 楠引純二郎 五五 中 四三 老鶴園 一〇 理學化學

最新列國海軍 平井千太郎 五五 中 三九 扶桑書院 一五 兵事海軍

作文 五十 講大町桂月 五五 小 四三 中外社 一〇〇 語學日本語作文

佐久間象山 象山遺跡表彰會編 五五 小 三七 實業之日本社 一〇〇 傳記佐久間象山

産業帝國主義 榊本卯平 五五 小 三三 洛陽堂 一〇〇 政治政治論說

考へ方と算術の力驗し 菅 隼人 五五 小 三三 精文館 〇五 數學算術

模範問題の考へ方 解き方を示し其次に力驗しの問題を掲げたり。

シエイクスピアの生涯と其作物等を評傳す。
 自修 英作文 原石 益治 五四 小中の 四八四 研究社 六〇〇 語學 英語作文
 自傷 錄湯 原 元 一 五六 小中の 二八〇 實業之日本社 〇七〇 文學 論 說
 世態人事に關する著者の所見及所感を蒐めたり。
 實 驗 食 療 法 東京食養研究會編 五五 小中の 三〇〇 弘 學 館 一〇〇 醫學 食飼療法
 食物養生法と食物治療法とを説く。
 實効主義の各科教授(小學教育實際) 小學教育研究會編 再版 一 中 二九〇 小學教育研究會 〇七〇 教育 教授 法
 各科教授上の缺陷を説き其救済法を述ぶ。
 實際研究に 初學年教育の革新 久 横 尾 繁 六 五五 一 中 六六六 榮 文 館 三三〇 教育 教授 法
 著者等五箇年餘の實地經驗に基き干渉抑壓の教育を排したるものなり。
 實 際 養 蜂 諏 訪 末 吉 五五 一 中 二二六 博 文 館 一三〇 農業 養 蜂
 著者の實際せる養蜂の方法、收支計算等を詳細に説明せり。
 △實 習 梵 語 學 荻 原 雲 來 五四 一 中 三二五 丙午出版社 一七〇 語學 梵 語
 文法、悉曇字書法等を説明し字書を附す。
 △實用 礦 物 學 講 義 岩 崎 重 三 再版 一 中 八八六 老 鶴 園 四〇〇 理學 礦 物 學
 前年に於ては礦物學の通論を草し後半に於て應用礦物學を講ぜり。
 自動教育法の原理と實際 河 野 清 丸 五四 一 中 三〇八 兩 圓 社 一〇〇 教育 教 育
 自由主義自動主義の教育法を論じ其代表者として理科教授法を最も詳述せり。

支 那 帝 政 論 稻 葉 君 山 五四 一 中 四三三 目 黒 書 店 一〇〇 政治 支 那
 支那帝政復舊の由來、袁世凱の登極問題等を論ず、卷首に内藤湖南氏の支那將來の統治と題する一文あり。
 瓜 哇 と セ レ ベ ス 八 木 實 通 五五 一 中 三三八 進 省 堂 一三三 地誌 南洋 諸 島
 瓜哇とセレベスの民俗、生産物等を紹介す、著者は實地視察したる人なり。
 △宗教 々 育 原 論(大學講義全集) 谷 本 富 五五 一 中 七七七 大 日 本 圖 書 社 二二〇 教育 宗 教 教 育
 宗教教育の基礎、標準、内容、方法を論じ、現代大哲學者の宗教觀を附す。
 住 宅 建 築 建築世界社編 五五 一 大 四三三 建築 世界 社 八〇〇 工 學 建 築
 住宅の外観及室内の寫眞、諸大家の住宅に關する記事、間取圖、住宅設計圖例を收む。
 珠 算 教 本 四 野 宮 朝 治 五五 一 小中の 三三四 博 文 館 〇八八 數學 珠 算
 最初に和算史の概要を述べ次に加減乗除の日用問題を説けり。
 趣 味 の 天 文 一 戸 直 藏 五五 一 中 三三五 現代之科學社 一三〇 理學 天 文
 前著星に多くの修正を加へて改題したるもの。
 趣味の日本史 上 卷 新 保 馨 次 五五 一 中 八八八 金 港 堂 二八〇 歴史 日本 歴史
 古來の傳説を收拾して各時代の人物、事態を生動せしめんとすと云ふ。
 小學教育 家庭 生活 の 準備 山 松 鶴 吉 五五 一 中 三三六 教育 新 潮 研究 會 〇七五 教育 家 庭 教 育
 主として各科教授と家庭生活準備との關係を論じたるもの、教育新潮叢書第二期第七卷とす。
 ショウペンハウエルの研究 征 矢 野 晃 雄 五五 一 小中の 八六六 東 亞 堂 一八〇 哲學 哲 學
 ショウペンハウエルの生涯、著書、關係文書、學說、評論等を研究す。
 女 子 の 禮 法 下 田 歌 子 五四 小 一 二九六 國民 書 院 〇九〇 倫理 禮 式
 宴會、參觀、神佛禮拜の心得其他少女の知るべき作法一班を講ず。

初幾 學 講 義 根 津 千 治 五五 一中 三英日 進 堂 一三〇 數學 幾 何 學
 獨修者又は初歩を學ぶ人々の參考書。
 初算 術 講 義 根 津 千 治 五五 一中 三英日 進 堂 一〇〇 數學 算 術
 初學者に適するやう、簡單明瞭に講述せり。
 新式 園 基 寶 典 第二 鈴木 爲 次 郎 五五 一中 七 大阪 屋 敷 〇六 諸 藝 園 基
 本卷は戰爭、布石の二部に分ちて説明せり。
 尋常 小 學 讀 本 卷 二 英 譯 岩 堂 保 譯 五五 一中 七 英語 五千 字 會 〇三 語 學 英語 和 文 英 譯
 譯文の外、用語と譯法の研究を掲ぐ。
 信 書 精 鑒 中 川 靜 五五 二中 五六 寶 文 館 三六〇 語 學 作 文 書 信 文
 上卷には信書文の組織様式、立案及整理等を述べ、下卷には季節用、通知用、人事用等の實例を掲ぐ。
 新々 英 和 辭 典 三 省 堂 編 五五 一小 一四三 三 省 堂 一三〇 語 學 英語 字 書
 中學程度とす、片假名にて發音を示せり。
 △新 植 物 漢 和 字 典 八 木 邦 造 再 版 五五 小中 二〇 山 海 堂 一三〇 理 學 植 物 學
 漢字の植物名を頭文字の畫數順に排列す。
 新 二 千 六 百 年 史 白 柳 秀 湖 五五 一中 九 老 東 亞 堂 三〇 歷 史 日 本 歷 史
 明治天皇の崩御に筆を起し事件の原因を求めて神代に遡る倒叙體なり。
 生 物 哲 學 土 田 杏 村 五五 小中 二 天 東 亞 堂 一〇〇 理 學 生 物 學
 生物學の一般概念を趣味ある筆致にて叙述す。
 西 洋 芝 居 土 產 坪 内 士 行 五五 小中 五 富 山 房 一四〇 諸 藝 演 劇
 七年間英米に於て見聞したる劇壇の現状を紹介す。

世 界 統 一 編、ホルウエツヒ 樋口 麗 陽 重 譯 五五 一中 三 八 博 盛 堂 〇九 政 治 獨 逸
 カイセルの世界統一計畫を説明したる秘書が佛人の手に入り更に日本語に重譯されたものなり。
 一 九 一 五 年 世 界 年 史 煙 山 專 太 郎 編 五五 一中 五 七 外 交 時 報 社 二 吾 歷 史 世 界 歷 史
 一九一五年中世界各國の重要なる出來事を月順に従ひて排列す。巻尾に詳細なる索引あり。
 全 名 勝 史 蹟 案 內 第二 篇 神 奈 川 縣 (中) 石 井 波 路 編 五五 一小 一 五 栗 原 書 店 〇 五 地 誌 日 本 地 誌
 本篇は専ら鎌倉及其近傍に就て説明す。
 戰 時 の 獨 逸 國 民 湯 原 元 一 五五 小中 三 天 中 央 報 德 會 〇 八 政 治 獨 逸
 主として獨逸の國民性、内政若しくは思想に關したる方面の事を述べ。
 禪 と 日 常 生 活 (第三 篇) 山 田 孝 道 五五 一小 六 四 光 融 館 〇 〇 宗 教 禪
 一般の人に禪の妙趣を悟らしめ、日常生活を全うする所以の道を示さんとす。
 草 字 彙 物 集 高 量 編 五五 一中 一〇 八 帝 國 圖 書 普 及 會 三 〇 三 美 術 書
 支那にて刊行せられたる草字彙を翻譯せるもの、文字と文章の研究を附す。
 壯 丁 讀 本 田 中 義 一 五五 一中 一 二 四 丁 未 出 版 社 〇 五 兵 事 軍 事 教 育
 軍事の精神と知識との大體を了解せしめんとするもの。
 考 大 正 日 本 地 圖 脇 水 鐵 五 郎 五五 一中 一 四 〇 金 港 堂 一 吾 地 誌 日 本 地 圖
 地圖四十四面。附録第一重要統計六一頁、第二地名索引九五頁。
 代 數 學 學 習 の 任 方 と 問 題 の 解 き 方 伊 藤 豐 十 五五 小中 一 三 九 二 松 堂 〇 六 數 學 代 數 學
 卷頭に受験準備の注意などを掲げたるを特色とす。
 模 範 代 數 學 問 題 分 類 集 稻 生 政 次 再 版 五五 小中 一 六 三 文 盛 堂 〇 五 數 學 代 數 學
 官立學校入學試驗問題を分類して解説したるもの。

臺灣植民發達史 東 佐藤 四郎 實 五、四 中 一八八 見文館臺北 一八〇 地誌 臺灣

臺灣の統治組織、過去二十年間の植民事業の發達等を述べたるもの。

田中 中將講演集 田中 義一 五、三 小中 一五 不二書院 〇、〇 軍事教育

國民と軍隊、在郷軍人心得、現役兵教育と壯丁教育等三十一篇を収む。

誰にも野 菜 畑今村 猛雄 五、五 中 一七 東文堂 一〇〇 農業栽培

廣く各種の野菜につきて其栽培法を通俗平易に説く。

誰にも株 式 相場 田丸勝之助 五、四 小中 一八 蜻蛉館 一、〇 商業相場

出来る株 式 相場 田丸勝之助 五、四 小中 一八 蜻蛉館 一、〇 商業相場

株式相場、取引所、株券の賣買等に關することを素人にもわかり易く説明せり。

誰にも小型發電機の製作及其取扱法 大日本電氣研究會編 五、五 小中 一八 大日本電氣研究會 一〇〇 電氣工學

電氣學の一般を了解せしめ次に各種の小型發電機製作法を説明せり。

タングステンとモリブデン 豊原信一郎 五、五 小中 一八 工學書院 〇、〇 理學 礦物學

タングステン及モリブデンの沿革、性質、定性試験と定量分析法等述べたるもの。

茶室構造法 圖解 杉本文太郎 五、三 中 一四 建築書院 二、五 諸藝 茶道 茶室

茶室の構造に就て其配置、空氣と光線、棟と屋根等の注意を述べ實例を多く掲ぐ。

徒 然 草 (國文口譯叢書) 芳賀 矢一 五、五 小中 一六 文會堂 〇、〇 文學 徒然草

一段毎に口譯し卷末に註解を附せり。

增補 帝國憲法述義 上 杉 慎吉 七版 五、五 中 一六 有斐閣 二、〇 法律 憲法

一般國民に憲法の知識を得しめん爲に言文一致にて述べたるもの。

帝 郊 外 の 史 蹟 安藤 祐 專編 五、五 中 一四 仁友社 〇、〇 地誌 東京近郊

東京近郊の主なる史蹟の由來を説き解説を試みたり。

△哲學 概 論 紀 平 正美 五、五 中 一五 岩波書店 三、五 哲學 哲

實有論、認識論、行爲論に分ちて哲學の概念を講述す。

哲 學 汎 論 木下 四郎 一 五、五 小中 一五 洛陽堂 一、〇 哲學 哲

哲學上の諸問題につきて簡單なる解決を試みたりと云ふ。

電氣工學重要問題解答 江藤 清角 五、四 中 一七 大日本工業學會 一、〇 工學 電氣工學

磁界、靜電界、抵抗等に亘り各二十題乃至六十題位を収む。

電氣工業力學 (電氣叢書) 建築書院編 五、五 小中 一三 建築書院 二、五 工學 電氣工學

電氣工學に應用し得べき力學の一斑を説明したるもの。

△獨逸思想と其背景 朝永 三十郎 五、五 小中 一四 寶文館 〇、七五 哲學 哲學論說

神祕說と獨逸思想、獨逸思想と軍國主義、獨逸の現代哲學と其最近背景等の論文を集む。

東 京 法 人 要 錄 東京證券商會編 五、四 小中 一五 東京證券商會 二、〇〇 商業 銀行會社

東京にある銀行會社等の資本、重役、所在等を示したるもの。

東京文學比較評論 高安 月郊 五、五 中 一六 高安 三郎 三、〇〇 文學 文學

東西の重なる詩、劇、小説等及其作者を比較論評す、二十年來研究の結果なりと云ふ。

東 洋 歷 史 集 成 上卷 櫻井 時太郎編 五、四 中 一〇 隆文館 三、五 歷史 東洋歷史

東洋諸國の盛衰興亡、文化の變遷、英雄聖賢の事蹟等を詳述す。

讀書の趣味と其方法 平井 晚村 五、四 小中 一七 國民書院 〇、五 教育 讀書法

主として中等程度の學生に向つて讀書の方法、必要、心得等を説きたるもの。

△鳥瀉無線電信電話 鳥瀉 右一 五、四 中 一七 寶文館 三、五 工學 無線電信

無線電信及電話の沿革、原理等を詳述す、著者は斯界の權威なり。

奈良 良と 京都 黒田 心 五五 一 三四 趣味之友社 〇六 地誌 紀行 内國

奈良京都の美術、奈良の三日、京都より奈良へ、宮島より奈良へ等。

南洋 通 覽 保坂 彦太郎 五五 一 九六 警 醒 社 四五 地誌 南洋 諸島

關領東印度、セレベス、ボルネオ、ニューギニア、スマトラ等の一般情勢を紹介す。

世界の南洋の富源 清水 保之 五五 一 三四 文 正 堂 〇七 産業

南洋の眞珠、燐礦、椰子、タイマイ、護謨等に就て説明、附録に最近實地渡航案内あり。

日用新報紙の文大町 桂月 五五 一 三八 廣 文 堂 〇八 語學 日本語 作文

實用向の題を選び、行草兩體の例を掲げて習字に資せり。

日支關係條約總覽 支那研究社編 五五 一 四三 支那研究社 〇四 政治 外

兩國關係の條約及文書類を蒐集し、支那稅關手續及注意を附す。

二宮尊徳修養訓(偉人修養叢書第六編) 足立 栗 園 編 五五 一 三三 文 陽 堂 〇六 倫理 修

原漢文の一節毎に字義と講義を附す。

日本登錄商標大全 第八輯 東京書院編 五五 二 二〇 東京書院 一八〇 産業 商

特許局の商標原簿を對照して調査せりと云ふ。

農民の現代を説き其訓練方針を論ず。

農 民 の 訓 鍊 山崎 延吉 五五 一 三三 裳 華 房 〇六 農業 農

農民の現代を説き其訓練方針を論ず。

パイオグラフイカル ストウリズ詳解 上 米、ホーソン 譯 五五 一 三三 集 文 館 〇四 語學 英

原文を多く挿み、單語、熟語等には一々譯語を附す。

俳句の大 道高 濱 虚子 編 五五 一 四六 實業之日本社 〇四 文學 俳

故子規の俳諧論議を補註したるもの。

俳 便 俳 通 巖 谷 小 波 五五 一 一〇三 博 文 館 一五 文學 俳

俳諧の練習法、季題と例句等を掲ぐ。

判 決 要 録 第六卷 法律新聞社編 再版 五五 一 二四 法律新聞社 三〇〇 法律 判 決 例

大正四年中法律新聞に掲載せられたる大審院、各裁判所等の判決を輯録す。

半 生 の 懺 悔 茅 原 華 山 五五 一 三四 實業之日本社 〇七 傳記 茅原華山

著者の自叙傳なり幼時より洋行までにて筆を止む其以後は更に他日書くべしと云ふ。

汎 獨 逸 主 義 佛、アンドレル 譯 五五 一 三九 黒 潮 社 一〇〇 政治 獨

汎獨逸主義の定義と方法を論じたるもの、トライチケの獨逸の軍國主義を附録とす。

學理的販賣員と販賣術 依田 信太郎 五五 一 三八 博 文 館 〇八 商業 商

販賣員の立場を中心として學理的販賣術、賣上増進法を説く。

人及び女として 與 謝 野 晶子 五五 一 三四 天 弦 堂 一〇〇 文學 論 說

著者の婦人評論集なり、女子と讀書、時勢と青年婦人、日本人の食物、處女と性慾等數十題あり。

微 分 積 分 學 河 合 弟 二 五五 一 四六 寶 文 館 三三 數學 微 分 學

故著者の第二高等學校に於て教授せられたるの教案を基礎とす。

佛 涵 養 講 話 前 田 慧 雲 五五 一 三六 日 東 堂 一五 宗教 佛

佛敎の感恩思想其他平易に講述したるもの附録に日本佛敎發達の徑路あり。著者の舊著佛敎思想講話の増補。

佛 教 講 話 佐々木 珍龍 五五 一 三三 修養世界社 〇六 佛敎 佛

安心と信仰とを得しめん爲に佛敎の大意を講述す。

佛 教 史 論 境 野 黄 洋 五五 一 三七 丙午出版社 一三 宗教 佛敎 史 傳

數論と佛敎との關係、邊磨に就いて、支那思想史と佛敎、禪の歴史等十五篇を收む。

佛敎心理の研究 橋 惠 勝 五五 一 三四 丙午出版社 一三 宗教 佛

五蘊、心意識、心所有法等を論じて佛敎心理の要點を解説す。

諸官立學校 物理學模範答案集 柴田初次郎 五五 小中の 二八八 寶永館 〇〇五 理學物理學
 入學試驗 明治三十九年より大正四年に至る十ヶ年の物理學試驗問題を集め之を學術系統的に分類して答案を附したるもの。
 文 實 典 伊賀駒吉郎編 五五 中 三〇 東洋大學 三三〇 文學文 學
 教訓文學、韻文學、散文學に分ち東西の名著等を紹介す。
 分類算術解法の研究 宗末 治 五五 小中の 二五七 大同館 〇八〇 數學算術
 直接解法、間接解法に區別して研究せり。
 增補米穀經濟論 西垣恒矩 三版 五五 中 二六九 山舍 一五〇 農業米
 米の需要供給、米價論、販賣組織の改善、米穀検査等専ら經濟的方面を論ず。
 畫解百則 百話池上文儼 五五 中 三九 森江本店 一八〇 宗教禪
 畫解百則を畫解す、附録に鄰近なる禪話一百なり。
 ベン習字手本講話 後藤朝太郎編 五五 小中の 一七五 泰山房 〇八〇 美術書
 上篇に於てベン習字を講じ下篇に手本を示せり。
 法制經濟叢書 巖松堂編 五五 小 三七四 巖松堂 一八〇 法律法 律
 第一編青山衆司著商法總論。第二編柳川勝二著相續法要論。第三編粟津清亮著保險法論。
 ボテイチェリ (繪畫叢書) 木村莊八編 五五 小 一八四 洛陽堂 一〇〇 美術繪畫—史傳
 ボテイチェリを評傳し代表的作品數圖を挿めり。
 マルサスとリカルド 米、バツテン 伊丹英之助譯 五五 小中の 六六 交上部書店 〇三〇 經濟經濟—史傳
 マルサスとリカルドに就て評論せるもの。
 △曼茶羅通解 權田雷斧 五三 中 一七三 丙午出版社 一五〇 宗教曼茶羅 金
 金、胎兩部曼茶羅に就て一々圖解を施せり。
 滿蒙策論 小野謙一 五三 小中の 二四四 小野謙一 一〇〇 政治政治—論說
 著者彼地を視察して將來の對支政策を論じたるもの。

△民事訴訟法原論 岩田一郎 一〇版 五五 中 一三三 明治大學 四〇五 法律訴訟法
 現行民事訴訟法の原理と解釋の一斑を論じたるもの。

名勝外散歩旅行俱樂部編 五五 小 一三三 星文館 〇五五 地誌東京近郊
 舊跡郊外散歩旅行俱樂部編 五五 小 一三三 星文館 〇五五 地誌東京近郊
 東京傍近の名勝古跡を紹介す。

山岡鐵舟高橋淡水 五五 中 二〇〇 日東堂 〇七〇 傳記山岡鐵舟
 鐵舟居士の經歷逸事等を面白く描きたり。

優生學 齋藤茂三郎 五五 小中の 二九七 不老閣 一三〇 理學ユーシエニックス
 一名を人類の遺傳と社會の進化と云ふ、人種改良の必要を説きしものなり。
 謠曲講義 鈴木暢幸 五五 小中の 五六一 甲陽堂 一三〇 文學謠曲
 高砂、嵐山、田村、取長、巴、熊野、羽衣等數十番を解釋す。

讀み方教授 蘆田惠之助 再版 五五 小中の 四六 育英書院 一三五 教育教授法
 尋常一年より高等科に至る讀み方教授法を研究す、著者多年の實地教授を基礎とせり。
 △理水及砂防工學 本論 諸戸北郎 五五 中 二八八 三浦書店 一七〇 工學治水
 砂防工事設計の任に當る技術者の參考用。

倫理と國民道德 深作安文 五五 中 一八三 弘道館 二八〇 倫理倫理
 著者が過去數年間に公にせる倫理、國民道德に關する論文四十一篇を蒐む。

第二 幼年書類

書名	著者	發行年月	冊數	頁數	發行所	定價	分類	件名				
修身	伽	二	學年	藤川	淡水	五五	小中の	一	敬文館	〇三〇		

グリムお伽噺(模範家庭文庫)	中島孤島	五五	一冊	四四	富山房	三三〇
くろんぼ征伐(幼年ボンチ)	木村小舟	五五	一冊	四四	博文館	〇二〇
兒童文學	馬淵冷佑	五五	小中の四	六〇	東京出版社	一一四
兒童文集	岸田蒔夫	再版	小中の	三六	精文館	〇五五
正少年傑作文	葛原幽	五五	小中の	一七	正文堂	〇三〇
凸坊の夢(幼年ボンチ)	本村小舟	五五	一冊	四四	博文館	〇三〇

第三 小説及劇

ギョツ	森林太郎	五五	小中の	三六	三田文學會	一一〇
銀の鍵	柳川春葉	五五	小中の	三三	新潮社	一一〇
空中の奇禍	押川春浪	五五	小中の	三三	大倉書店	〇六〇
春浪快著集	押川春浪	五五	小中の	八四	大倉書店	一一〇
ストツクホルム(ストリンドベル)	端ストリンドベル	五五	小中の	一八〇	洛陽堂	〇五〇
トルストイ民話集	塚本弘	五五	小中の	三三	洛陽堂	一一〇
マクベス(沙翁傑作集)	坪内逍遙	五三	小中の	三三	早稲田大學	一一五
ロスマルスホルム	坪内士行	五五	小中の	三三	早稲田大學	一一〇

大正五年六月十八日印刷納本
 大正五年六月二十日發行
 編輯兼發行者 東京市四谷區谷町一丁目拾八番地 東京市神田區美土代町貳丁目壹番地 東京市神田區美土代町貳丁目壹番地 東京市神田區美土代町貳丁目壹番地
 印刷 東京市神田區美土代町貳丁目壹番地 東京市神田區美土代町貳丁目壹番地 東京市神田區美土代町貳丁目壹番地 東京市神田區美土代町貳丁目壹番地
 發行所 東京市神田區美土代町貳丁目壹番地 東京市神田區美土代町貳丁目壹番地 東京市神田區美土代町貳丁目壹番地 東京市神田區美土代町貳丁目壹番地
 日本圖書協會編輯部(定額一冊) 日本圖書協會編輯部(定額一冊) 日本圖書協會編輯部(定額一冊) 日本圖書協會編輯部(定額一冊)

日本圖書協會選定 新刊圖書目錄 第七卷

第一 一般書類

安産のしるべ	岩崎直子	五五	小中の	三六	日進堂	〇九五	醫學
圖策妙手	小林健太郎	五五	一冊	一三	圖基雜誌社	〇七五	諸藝圖
伊太利王國	川副嘉一郎	五五	小中の	三〇	金城社	〇八〇	西洋歷史
妹の見たるニイチエ	磯部泰治	五五	小中の	三三	新潮社	〇七五	傳記ニイチエ
印度の古文	明重松俊章	五五	小中の	一〇九	正文社	〇三五	歷史印
海の趣味	若林欽	五五	一冊	三三	同文館	一一〇	雜海
英語會話	高田千壽	五五	小中の	三三	松南會	一一五	語學英語會話

△……專門的のもの
 ×……專近のもの
 ○……一般的のもの
 小中の大 四六二倍以上
 菊四六判
 菊判半載以下

淺田先英 文 日 誌 片山 寛 編 五六 小中の 一七二 文 會 堂 〇五 語學
 故淺田榮次氏の日記の一節なり、磯矢剛氏の譯文及註釋あり。
 英文 藻 鹽 草 南 日 恒 太 郎 五六 小中の 一三三 北 星 堂 〇五 語學 英語—英文和譯
 スマイルス、スチール、アチソン、マクス・オレル等の文を抄出し譯文を附す。
 埃及美術史(美術叢書第三輯) 英、ペトリ 譯 五五 小中の 三三 向 陵 社 一五 美術 美術—史 傳
 古代埃及の美術工藝を論じたるもの、百數十の挿圖あり。
 江 田 島 生 活 海 の 中 尉 五六 小中の 五六 武俠世界社 一三 教育 海軍兵學校
 海軍兵學校の學生々活を面白く描きたり。
 戸見 附 寫 眞 帖 向 陵 社 編 五六 一中 一五 向 陵 社 三〇〇 地誌 東 京
 明治初年頃の江戸見附三十六圖を收む。
 實驗園藝肥料施用法 鈴木千代吉 五六 一中 五八 日本園藝研究會 三三 農業 園 藝
 植物の榮養を論じ花卉と果樹の肥料施用實驗成績を述ぶ。
 演 劇 論 集 小山内 薫 五六 小中の 五五 日 東 堂 一〇 諸藝 演 劇
 著者が歐洲觀劇旅行より歸りたる後發表したる文章廿三篇を收む。
 大 谷 光 瑞 關 露 香 五六 小中の 一〇 政 教 社 〇〇 傳記 大谷 光 瑞
 光瑞師の性格を知るを得べし。
 お 話 の 研 究 水 田 光 再版 五六 一中 三三 大日本圖書 一五 教育 話 方
 父兄及教員の爲に兒童のお話を教育的方面より研究したりと云ふ。
 △科 學 の 價 値 佛、ボアンカレ 譯 五六 小中の 三〇 岩波書店 一三 理學 理 學
 數理的科學、物理的科學、科學の客觀的價值を述ぶ。

△瓦斯及其副産物工業 中 卷 栗 原 鑑 司 五五 一中 五〇 丸 善 三〇〇 工業 瓦 斯
 本卷は石炭瓦斯の供給、應用及び分析編とす。
 學校教育の倫理的基礎及其實際 守内喜一郎 譯 五五 一中 三六 目黒書店 一八 教育 教 育
 原名を心理學と教師と云ふ、譯者の論文三篇を附す。
 活 禪 活 話 日 置 默 仙 五五 小中の 四八 一 喝 社 一〇〇 宗教 禪
 上篇活人劍に於ては禪の靜的方面を説き下篇活消息に於ては動的方面を述ぶ。
 家庭小兒科醫典 崎 昭 五五 一中 四二 富 山 房 一五 醫學 小 兒 科
 小兒の養育法、病狀、治療法等を細大洩らさず記述す。
 簡 易 生 活 法 西 村 文 則 五六 一中 三三 大日本圖書 〇〇 社會 簡易生活
 理論、實際兩方面より簡易生活を説く。
 漢 字 の 形 音 義 岡 井 慎 吾 五六 一中 四六 六 合 館 一五 語學 漢 字
 漢字の形、音、義に涉りて説明せるもの。
 來るべき時代のために 瑞、エレン、ケイ 再版 五六 小中の 三三 北 文 館 一三 文學 論 說
 現代は若き人々に何を求めるか、平和問題、再新的修養論、少數と多數の四篇を譯せり。
 禪學強 膽 術 渡 邊 約 山 五六 小中の 三三 廣 文 堂 〇五 宗教 禪
 禪學の修養によりて剛健の氣風を生じ得る所以を説く。
 霧 の 王 國 へ 別 所 梅 之 助 五五 小中の 三七 警 醒 社 一〇〇 地誌 紀行—日本
 一切經山、忘れずの山、出羽の旅、那須のけふり、鹽原の溪谷等。
 近 代 音 樂 精 髓 大 田 黒 元 雄 五五 小中の 三三 音樂と文學社 一〇〇 美術 音 樂
 現代の文明を背景としたる音樂、歌劇等を論ず。

×勤勉の力附百人一訓 帝國從業者獎勵會編 五六 小中の 一益 良書刊行書 〇三 倫理教訓

×クラーク入門(商業叢書第一編) 商業叢書刊行會編 五六 小 二七 岡村書店 〇四 商業商

△刑法と社會思潮(刑事叢書第一編) 牧野英一 五六 中 二四 有斐閣 一〇〇 法律刑法

△刑法判決實例 嚴松堂編 五五 小中の 七四 嚴松堂 一八〇 法律判決例

明治四十一年十月より大正四年末に至る判決例を採集す。

△結晶光學講義(現代科學叢書第一編) 中村清二 五五 小中の 一七 現代之科學社 〇三 理學光學

某講習會に於て講述し又實驗して示したる事項の筆記。

△劍客禪話(禪門叢書第七編) 加藤咄堂 五六 小中の 一三 丙午出版社 〇〇 宗教禪

劍禪相關の談話を蒐む。

△高等現代ノ代數學解法考案 長橋瀧藏 五六 一 一八 明誠館 〇〇 數學代數學

豫備内容を必須事項、解法考案、默想録、練習問題の四段に分ちたり。

△強勢健腦術 術金杉英五郎 五六 小中の 二四 廣文堂 〇七 醫學健腦法

積極的に健腦の根本義を説く。

△公證人法論 網長谷川平次郎 五五 一中 七三 嚴松堂 二五 法律公證人

公證人法及關係法令を詳解す。

△向上の意氣 加藤咄堂 五七 小中の 二〇 泰山房 〇八 倫理修養

平易の談話、通俗の文章を以て向上心の修養を説く。

△高等女子新作文五十嵐力 五五 一中 六五 大日本圖書株式會社 二〇 語學日本語作文

高等女學校、女子師範學校の作文教科として又一般婦人の文章稽古の參考書として著したりと云ふ。

△高等文官判事辯護士試驗答案集 飯倉快堂編 五六 一中 三六 有斐閣 〇五 法律法

最近合格者の答案を蒐む。

△公民講話(教訓叢書第六編) 足立栗園 五六 小中の 三六 文陽堂 〇三 倫理教訓

公民の權利義務を説き道德條項、訓言、美談等を載せたり。

△國民經濟學原論 第七冊 運營 獨、シユモラ、山田伊三郎譯 五五 一中 五八 富山房 一八〇 經濟經濟學

財流通及所得分配の社會的過程を述ぶ。

△文部省檢定受驗者必讀 國民道德綱要 文檢受驗同志會編 再版 五六 一中 二六 三友堂 〇七 倫理倫理

文部省中等教員檢定試驗に應ぜんとするもの、參考書。

△古錢 大觀中橋掬泉 五六 中 二八 朝陽舎 一五 美術古錢

上卷を日本之部、下卷を支那及安南之部とし外に和漢繪錢類集を附録とす。

△御即位禮勅語と國民の覺悟 寬克彦 五六 一中 一五 清水書店 〇八 倫理修養

東京市講演會に於ける講演を補正したるもの。

△短期基 道橋本藤三郎 五六 一中 二二 弘學館 〇八 諸藝園藝

初學の人に了得せしむるやう平易に基道を説明せり。

△最新英語獨修書 吉田幾次郎 五五 小中の 三〇 寶文館 一〇〇 語學英語

本書は英語讀本卷一の程度より講義を始む。

△最新英語獨修初步 吉田幾次郎 五五 小中の 三三 寶文館 〇八 語學英語

全く英語を知らざるもの、爲に發音より始めて單語までを講述す。

最高等英語獨習書 吉田 幾太郎 五五 小中の 四〇 寶文館 一三〇 語學英
 中學三年程度以上の學力あるものに適す。
 新健康法 全書 西川 光次郎 五六 小中の 三五 丙午出版社 一〇〇 醫學衛生
 本能の教ふる健康法、光線療法、運動療法、水治療法、食養の話等あり。
 新工業化學便覽 勝部 先編 五六 小 三六 盛文館 一〇〇 工業化學工業
 度量衡並に計算に關する事項、化學性質に關する事項其他技術者等に必用なる事項を收む。
 最新職業教育の研究 川本 宇之介 五六 中 四一 目黒書店 一六〇 教育職業教育
 職業教育の發達、現今の職業教育、職業教育と陶冶、我が國と職業教育其他。
 新實驗養鶏秘訣 中村 孤月 五六 中 二六 甲陽堂 〇七〇 農業養
 最新の學理を最も平易に、又實際より得たる知識をも記述せり。
 自修最新簿記の覺へ方 國分 可任 五六 小中の 三三 大同館 〇七〇 産業簿
 著者二十年間實地教授の經驗により簿記上難解の點を平易に解釋したり。
 裁ちもちや集 高田 久鏡子 五六 中 一七 大倉書店 一〇〇 家事裁
 布を以て玩具を作る法を説けり。
 作文文法要説(高等受験參考) 内海 弘藏 五六 小中の 四一 寶文館 〇七〇 語學
 作文の良法と適切なる文例と文法體得の方法とを講述す。 日本文法
 産業革命と農業問題 佐藤 昌昌 五六 中 三九 裳華房 一八〇 産業農
 歐洲に於ける産業革命の推移に鑑み我農業組織及經營法を論ず。
 △實驗煙害鑑定法 楠木 德二 五六 中 四八 星文館 三〇〇 工業煙
 都市煙害、鐵山煙害等の鑑定法を論ず。 害

實驗花卉園藝上 卷 盧 貞吉 五六 中 四六 裳華房 一八〇 農業園
 本卷に收むるところ松、竹、梅、福壽草、水仙、アネモネ、すみれ、ばら其他和洋草花三十二種。
 實踐倫理要義(教育講座 第十一編) 深 作 安文 五六 小 三一 日本學術普及會 〇八〇 倫理倫
 個人、家族、社會、國家倫理を説き終に倫理學の初歩を述べ。
 實用西洋料理法 赤堀 菊子 五六 小中の 四六 東京社 〇八〇 家事料
 食物の風味をよくする料理法を説けるもの。
 兒童の世紀 瑞、エレン、ケイ 田 實譯 五六 小中の 四三 大同館 一三〇 教育兒
 兒童中心の教育思潮を徹底的に説けるものなり。
 兒童の精神生活(教育新潮叢書 第二期第八卷) 高島 平三郎 五六 中 二六 教育新潮研究會 〇七五 心理
 兒童の智力、感情、意志の生活を研究す。 兒童心理
 支那の軍事、法政經濟、哲學、教育、文學其他を各専門家が研究せるもの。
 支園制度の概要(歴史講座 第五編) 吉田 東伍 五六 小 二五 日本學術普及會 〇八〇 歴史莊
 支園制度の名義、沿革等を簡明に説明せり。
 商業書式 東京高等商業學校 調査部 編 五六 大 一四 三省堂 一六〇 商業商業作文
 現今重なる商店會社等にて使用せる内外の商業書式を網羅す。
 △ストラス植物學 下卷第一冊 獨、ストラスブルガー等 譯 五六 大 二〇 隆文館 三七〇 理學植
 本卷に植物學各論の第一として隱花植物を説く。 物學
 初對面 堀川 美治 五六 小中の 四九 明文館 〇七五 傳記 日本人人物評
 井上角五郎、湯河元臣、夏目漱石等百十名家への初對面談なり。

職工優遇論 總論第二職工 宇野利右衛門 五六一 中 八八 工業教育會(大) 二五五 工業職工

社會の實情、國體及國民性等より優遇論の根據を證明す。

初代 數學 講義 根津千治 五六 一 中 四四 日進堂 一四四 數學代數學

初學者も了解し得るやう卑近平易に説明せり。

修養新學 生訓 臣々堂主人編 五五 一 小 四八 光世館 〇四〇 倫理教訓

諸名士の教訓を蒐めたるもの。

新五子稿 (俳諧名著文庫 第五篇) 叔山庭後編 五六 一 小 八四 俳書堂 〇五五 文學俳諧

太祇、燕村、青蘿、曉齋、關更五子の作を合して類題したるもの。

新作文上達 法文章講習會編 五六 一 小 三五 東盛堂 〇五五 語學 日本語作文

普通文、手紙の文の作り方と作例とを掲ぐ。

新 生藤井武 五六 一 小 二〇 岩波書店 〇五五 宗教基督教

著者のイエスに由る新生の光景の一斑を叙す。

新選俳句大觀 下山霜山編 五六 一 小 五三 實業之日本社 〇八五 文學俳諧

大正元年より本年まで諸新聞雜誌に掲載せられたる俳句を蒐集して分類す。

△倫理、心理、宗教 新著梗概 第十 中島力造編 五五 一 中 二九 目黒書店 〇七五 哲學哲學書目

教育、社會學、哲學 新著梗概 第十 中島力造編 五五 一 中 二九 目黒書店 〇七五 哲學哲學書目

パツドラ氏の國學的精神、ラズルスキー氏の個性の研究に就て其他數書を解説す。

新俳句自在 中内蝶二 五七 一 小 四三 二松堂 二〇〇 文學俳諧

初學者の爲に俳句の作りやうを教へたるもの。

新花摘 (大正校訂俳諧名著文庫 第四編) 叔山庭後編 五五 一 小 八四 俳書堂 〇五五 文學俳諧

天明頃の卯月八日より水無月十六日までの谷口燕村が俳諧日記なり。

新沙翁警句集 坪内士行編 五五 一 小 五七 東京毎日新聞社 〇八五 文學 金言及警句集

沙翁の諸作物より警句を抄譯し人生、死、戀愛、悲哀、女性等に分類す。

西洋古代哲學史 (哲學叢書 第五編) 安倍能成 五六 一 小 六八 岩波書店 一三〇 哲學哲學史傳

アルニムの西洋古代哲學、ボイムカーの教父哲學及中世基督教哲學を基礎とせりと云ふ。

西洋時代史觀 中世大類 仲 五六 一 中 三三 文會堂 一五五 歷史西洋歷史

此卷に於ては主として中世高潮期とも云ふべき封建時代を論じたり。

最近歸朝者みやげ 世界商業百談 石井研堂編 五六 一 小 五五 佐藤出版部 〇〇〇 商業商業

世界各國の商業奇談多し。

全一 生 活 英、部、重、治、譯 五六 一 小 二〇〇 不老閣 〇〇〇 哲學哲學

純一的性格、自然詩人ウオーヅウオースと其觀照的態度等を譯せり。

△戰 争 と 契 約 種 種 重 遠 五六 一 中 五九〇 有斐閣 三〇〇 法律契約

民法及法理學上より戰爭と契約を研究す。

退出より 充實生活丸 野内人 五六 一 小 三三五 日東堂 〇五五 社會處生法

出勤迄の時間的基礎の上に築かれたる生活法を論ず。

原色大日本帝國貨幣古今集 東光園編 五六 一 大 一 東光園 五〇〇 經濟貨幣

古今の貨幣四百六十三圖を集む。

旅とふる郷 若山牧水 五六 一 小 二四八 新潮社 〇五五 文學 日本文學文集

著者の紀行文、感想錄、歌等を蒐む。

短歌 隨 腦尾上柴舟 五五 一 小 一六六 明治出版社 〇六〇 文學和歌

歌論集。

將基陣立くづし法 土居市太郎 五六 小中の 一 吳萬歳館 〇五 諸藝將

秘訣陣立くづしの變化を説明す。

手数のいらぬ珠算の秘訣 佐々木政吉 五六 小中の 一〇〇 文正堂 〇五 數學珠算

新らしき珠算の秘訣 佐々木政吉 五六 小中の 一〇〇 文正堂 〇五 數學珠算

加減乗除を簡単に迅速に行ひ得べき方法を説く。

鐵道各職試験問題解説集 帝國鐵道出版社編 五六 小中の 七五 帝國鐵道出版社 〇六 交通鐵道職員

驛長、車掌、信號手、機關手、火夫、檢車手、中央教習所、電信修技生等の採用試験問題を解答す。

電氣通論(電氣工學初等叢書) 建築書院編 五六 小中の 二二 建築書院 〇五 理學電氣

磁氣、靜電學、電流に就き通俗的に説明せり。

獨逸戰前の真相 町田梓樓譯 五六 小中の 三三 早稻田大學 〇八 政治獨逸

開戦前の獨逸の皇室、陸海軍、議會等を説き、モロツコ問題、近東問題に及ぶ。

獨逸の經濟的勢力 伊藤文吉 五六 小中の 三〇 民友社 一五 經濟獨逸

主として獨逸産業發達の原因、沿革、現況等を述べ多くの統計圖表を附す。

東京に就職と其成功 藤井衡編 五五 小中の 二七 雄文館 〇五 社會職業

職業の種類、名稱及就職の方法などを詳述せり。

利家夜話(外二種(日本偉人言行資料の内) 堀田璋左編 五五 小中の 三三 國史研究會 一〇〇 傳記傳記日本人

利家夜話(前田利家言行録)、微妙公御夜話(前田利常言行録)、命期集(伊達正宗言行録)の三種を收む。

△特許法原論 獨、小西眞雄譯 五五 小中の 四三 巖松堂 二〇〇 産業特許

特許に關する理論と實際、判決等を研究せるもの

浪書六書 翰村上浪六 五六 小中の 三三 山田書店 〇五 語學日本語作文

言文一致浪六著の書翰文集と云ふ意味なり。

日本經濟論 神戶正雄 五六 小中の 四八 弘道館 一三 經濟經濟

京都帝國大學金曜特別講演に於てなせる著者の講演を筆記す。

日本美術史(美術叢書) 英、ドイツ、若水譯 五六 小中の 三三 向陵社 一五 美術美術

原書を舊日本の美術工藝と云ふ、日本の繪畫、彫刻、金屬作品、陶磁器、漆器等に就て説明す。

俳句自由自在 武田鶯塘 五五 小中の 四三 いろは書房 〇七 文學俳諧

初歩の人に俳句の作りやうを教へたるもの。

俳句のちか道 内藤鳴雪 五六 小中の 四三 廣文堂 〇八 文學俳諧

俳句に關する著者の談話、辯論、評釋等を集む。

花屋日記(俳諧名著文庫) 第三篇 釋文 曉 五六 小中の 六六 俳諧書堂 〇五 文學俳諧

芭蕉終焉記なり。

×病兒及虛弱兒の養育法 瀨川昌者 五六 小中の 二五 新橋堂 〇八 家事育兒

病身虛弱の小兒に適應せる育兒法を述べ、振假名付。

兵營生活 平井正道 五七 小中の 三〇 東亞堂 〇六 軍事陸軍

兵營生活の實情を述べ、著者は陸軍歩兵少佐なり。

平家 詩 史村山龜齡 五六 小中の 六六 博文館 三〇 歷史日本歷史

平家の史傳を詩化したもの、暮春西行記を附す。

法制經濟叢書 巖松堂編 五五 小中の 九七 巖松堂 一八〇 法律法律

第四編板倉松太郎著民事訴訟法論第一冊、第六編横田秀雄著物權法論前編、第七編堀川美哉著社會保險論、第十編牧野菊之助著親族法要論。

杜鵬	研究	川口孫治郎	五六	小中の	四八	寶文館	二〇〇	理學杜鵬						
舞	ご	ろ	も	典謝野晶子	五五	一小	三五	天弦堂	二〇〇	文學和歌				
滿蒙	と	山東	小川運平	五六	一中	三九	泰東日報支社	二〇〇	政治政治論說					
滿蒙問題、山東問題を論じ外篇として對支政策の結論を添ふ。														
名將	之	戰略	上卷	岡谷繁實	五五	一中	五七	國民タイムス社	二〇〇	兵事戰略				
北條、毛利、武田、上杉、織田、豊臣、徳川其他數十氏の戰略を蒐録す。														
隠れた	明	治	裏	面	史	伊藤仁太郎	五六	一小	八七	星文館	二〇〇	歴史日本歴史		
明治政府の樹立、山縣有朋と山城屋事件、明治初年の暗殺三件其他。														
文字	の	起源	(通俗大學文庫 第六編)	後藤朝太郎	五五	一小	三六	通俗大學會	〇三〇	語學文字				
簡明に文字の起源を説く、詳細なる索引あり。														
よく	ぞ	男	に	八波則吉	五六	小中の	三八	敬文館	〇七〇	倫理修養				
修養に關する講話を集む。														
×立	志	道	話	橋	刺	紅	五六	小中の	一五	天津社	〇四〇	倫理倫理事蹟		
英雄偉人の逸話言行中より立志に資するものを集む。														
少年	歴	史	の	庫	春	の	部	少年通俗教育會編	五六	一小	五四	博文館	〇五五	歴史歴史
主として英雄の逸話、内外の戰爭物語等を收む。														
老人	より	青年	へ	村	田	保	五六	小中の	三五	二	松堂	一〇〇	倫理教訓	
青年の修養、元氣、克己、奮闘等を説けるもの。														

第二 幼年書類

教師の	和文英譯	實例	神原彌	五六	小中の	三七	建文館	〇七〇	語學	英語—和文英譯			
添削せる													
和見なき英文らしき英文の構成法を會得せしめんとす。													
速断	和文電報	暗號	中村幹治	五五	一大	一〇〇	スキフト商會	一〇〇	通信電				
誤謬の防遏と發見法に最も力を注げり。													
修身	お	伽	一	學	年	藤川淡水	五六	小中の	一七	敬文館	〇三〇		
幼年	お	話	の	庫	春	の	卷	少年通俗教育會編	五六	一小	五四	博文館	〇五五
百譚	お	話	の	庫	春	の	卷	少年通俗教育會編	五六	一小	五四	博文館	〇五五
自在	小	學	生	繪	手	本	森田太三郎	五五	二中	二三	博文館	〇四〇	

第三 小説及劇

ア	ダ	ム	以	前	米、ロンドン	三郎	譯	五六	小中の	三六	洛陽堂	〇八〇	
入	江	の	ほ	と	り	正	宗	白鳥	五六	一小	四五	春陽堂	〇九五
卒業	して	から	牛	後	迂	人	再版	五六	一小	二九	佐藤出版社	〇五〇	
中山	大	納	言	後	編	碧瑠璃	園	五六	一中	四八	文淵堂	〇九〇	
俳諧	亭	句	樂	(現代脚本撰集の内)	吉井	勇	五五	小中の	一五	通	一	舎	〇四五
默	阿	彌	物	語	河	竹	繁	俊	編	五六	四三	春陽堂	〇八五

奥羽沿革史論 日本歴史地理學會編 五六 一 中 四六 仁友社 一七 歷史 奥羽

△歐洲政治及學說論集 小野塚喜平次 五七 一 中 四六 博文館 一八 政治 治

△化學工業用機械 佐藤榮吉 五七 一 中 三〇 丸善 二〇 工業 機械 工業 學

化學實驗案 內藤橋金次郎 五七 一 中 二〇 大倉書店 〇七 理學 化學 學

家事の新研究 野口保典 五七 一 中 六五 成美堂 三三 家事 家 事

×家庭醫學 腸病の話 南大曹 五七 一 中 二三 新橋堂 〇六 醫學 胃 腸 病

×家庭醫學 産の話 香妻勝剛 五七 一 中 一三〇 新橋堂 〇六 醫學 産

×家庭醫學 耳鼻咽喉病の話 千葉眞一 五七 一 中 一七六 新橋堂 〇六 醫學 耳鼻咽喉病

×家庭醫學 小兒病の話 唐澤光徳 五七 一 中 二四 新橋堂 〇六 醫學 小兒 病

×家庭醫學 神經衰弱の話 山田鐵藏 五七 一 中 一三三 新橋堂 〇六 醫學 神經衰弱

案匠文 必ず利くチラシの持らへ方 清水正巳 五七 一 中 一四 佐藤出版部 〇六 商業 廣 告

五段漢字 典 露、ロゼンベルグ 五七 一 中 四三 興文社 一五 語學 支那語 字書

漢文解釋要説(高等受験參考) 池田四郎次郎 五七 一 中 三三 寶文館 〇六 語學 漢 文

最近十五年官立 漢文問題解釋 遠山操編 五七 一 中 六五 東華堂 〇六 語學 漢 文

機械工場利益増進法 森山弘助 五七 一 小 四五 工業教育會(大) 〇〇 工業 紡 績

本位教育 育 講話 乙竹岩造 五七 一 中 二〇 柔道會本部 〇五 教育 教 育

柔剣道講習會に於ける講演の筆記。 赤沼智善 五七 一 中 七三 無我山房 二七 宗教 佛 教

訓練方面の研究施設 小學教育研究會編 三版 五七 一 中 一七 目黒分店 〇六 教育 訓 練

各地小學校の訓練實施案を多く掲げたり、小學教育實際叢書の第五卷とす。

警察作文 範 警 眼 社 編 五七 一 中 一八 警 眼 社 〇二 語學 日本語 作文

警察官に必用なる公文、電報文等を説明し、警察官職務心得等を附す。

訂源氏物語詳解 第一帙 紫式部編 五七 一 中 五三 博文館 三三 文學 源氏物語

第一帙に收むるところは桐壺より花宴までとす、註釋詳密。

三

△工業用鐵鋼材向井哲吉 五七 一中 一五九 善 一三〇 工業鐵

鐵鋼の有する性質及性質の變化検査法等を述べたるもの。
諸官立學校 國語問題逐字模範註釋 小山龍之輔編 五六 小の 四六 北星堂 〇六 語學 日本語
入學試驗 明治四十年以後の問題を解釋す。

△國體憲法及憲政上杉慎吉 五六 一中 五〇 有斐閣 三〇 政治憲法

國體、憲法、憲政に關する論文を集む。
文檢用國道徳要領 明治教育社編 五六 小の 四〇 大同館 一〇〇 倫理倫理

修身の文檢試験に合格したる數氏が執筆したりと云ふ。
國民道徳要領 吉田靜致 五七 一中 四九 實文館 一〇 倫理倫理

我が國民道徳の由來、特質、儒教及佛教との關係等を述ぶ。
誰にも米相場 場田丸勝之助 五六 小の 三四 蜻蛉館 一〇〇 商業米相場

悟つてから (禪道叢書第五編) 日置默仙 五六 一小 三五 光融館 〇八〇 宗教禪

悟るまでの心得と悟つてからの力を述ぶ。
必携此は調法 小澤啓太郎 五五 一中 二八 平凡社 〇五 數學 數學表

基礎計算の諸表、應用算の諸表、基礎計算の便法に分つ。
參禪實話 何休庵主人 五七 小の 三〇 東亞堂 一〇〇 宗教禪

坐禪論、雲水物語、高僧逸話、禪林佳話に分つ。
實習刺繡の仕方 桶正治 五七 一中 一八 弘學館 〇七五 諸藝刺繡

實業成業の要義 井上泰岳編 五六 小の 三四 博文館 〇六 倫理教訓

實業に志す青年への成業訓、處世訓を集む、講述者は一木喜徳郎、河野廣中、添田壽一、進澤榮一等十二名。
誰にも實用電氣玩具製作法 入舟勝治 五七 小の 三八 大日本電氣研究所 一〇 工業玩具

種々の電氣應用玩具製作法と、玩具用調判法、用品類を説明せり。
△宗教哲學 (哲學叢書第七編) 石原謙 五七 小の 四八 岩波書店 一〇〇 宗教 宗教哲學

宗教に理論的根據を與へ其理解を深くすることを目的とす。
修養 瑣言 高橋鷹藏 五七 小の 三九 北文館 〇五 倫理修養

修養に關する短文百二十一篇を集む。
圖基定石活論 上卷 巖崎健造 五七 一中 四四 方圓社 〇五 諸藝圖基

上卷に收むる所總説及び小目小桂馬懸りの部とす。
官公吏書翰と式辭 鈴木魅編 五七 小の 三五 丁未出版社 〇八〇 語學 日本語作文

主として實例を多く採りたるもの。
新文章作法 手引 文章講習會編 五七 一中 三八 東盛堂 〇六〇 語學 日本語作文

普通文、書翰文の作法及作例。
最高新商略 (プラチナ叢書第一編) 秋山紅之助 五七 小の 三三 長久社 一〇〇 商業商

廣告、窓飾、接客法等による新商略を述ぶ。
心身修養 養高木兼寛 五七 小の 三三 廣文堂 〇八〇 倫理修養

心身修養に關する著者の講譯、談話等の筆記を蒐む。
人性論 永井潜 五七 一中 三〇 實業之日本社 三〇 理學人

太古の日本住民、男性美と女性美、生理學上より見たる力士、色彩と人生其他の論文を收む。

改訂新撰 日本外史 池邊義象 五六一 小一〇八 博文館 二四〇 歴史 日本歴史
 増補新撰 日本外史 落合直文 五六一 小一〇八 博文館 二四〇 歴史 日本歴史
 今上陛下の御即位禮までを増補したり。
 新撰 俳諧辭典 岩本梓石編 四版 小中の 六五 大倉書店 三〇五 文學 俳諧
 俳諧の季題を始め、古語、俗語、俚語、風俗、人名、地名、伎藝等を收む。
 新譯 皇朝靖献遺言 峰尾謙編 五七 小中の 三四 廣文堂 〇〇五 傳記 傳記—日本人
 守屋、鎌足、清麻呂、道真、重盛、正成、義貞、親房八人の傳記。
 親鸞 聖人の宗教 金子大榮 五七 小 三三 無我山房 〇〇五 宗教 親鸞
 主として教行信證の梗概を叙し、三經と七祖との概観を加へたるもの。
 △森 林 經理 學 植村恒三郎 五七 中 六九 三浦書店 三〇三 産業 山
 主として獨逸兩國の斯學に關する各著にして我國の實況に適應せるものを參考にしたりと云ふ。
 教育醉人の妻 瑞野田豐實譯 五五 中 三〇〇 博愛館 三〇六 教育 教育
 小説を假りて原著者の教育主義を發表したるもの。
 靑酸瓦斯燻蒸法門 岡威夫 五七 中 一八四 裝華房 一〇三 産業 園藝
 靑酸瓦斯燻蒸による害蟲の驅除及豫防法なり。
 石 雲 錄 横山健堂 七七 小中の 三四 正文堂 〇八五 隨筆 隨筆
 紀行、隨筆、人物評論など。
 世 間 學村上浪六 五七 中 三一 大阪尾號 〇九五 社會 雜會—雜
 世間ありのまゝ赤裸々を見、高尚なる理論を除却せりと云ふ。
 世間の理想的店員 山本邦之助 五七 小 二七三 平和出版社 〇八〇 商業 商業
 店員の心得べき事項を蒐集したる教訓書。

戰後文明の研究 海老名正編 五七 小中の 三四 洛陽堂 〇五五 文學 論說
 戰後の國家主義、社會的形勢、宗教道德、哲學思潮、美術界、平和運動等に關する諸名案の論文を集む。
 戰場秘話 貫仁門 五六 小 三三 博文館 〇八五 軍事 日露戰爭
 三十七八年戰役に於ける興味多く教訓に富める戰歴談を輯録す。
 處世孫子講話 下篇 塚原靖 五七 中 二二 東亞堂 〇八五 哲學 孫子
 我國の實例を引きて評釋せり。
 高杉 晋作 横山健堂 五六 小中の 老〇 武俠世界社 一三〇 傳記 高杉晋作
 高杉晋作の傳記を主とし問々評論を加ふ。
 男子の意氣 佐々木照山 五六 小中の 三三 泰山房 一〇〇 文學 論說
 亞細亞興隆策、處置と處分、富士山鳴動其他の論文集。
 獨和ツアラトウストラ如是說 第一編 山口小太郎譯 五七 小中の 三〇〇 精華書院 〇七〇 哲學 哲學
 一節毎に獨和對譯せり。
 採集通俗蝶類圖說 岡崎常太郎 五七 小中の 九三 松堂 〇七五 理學 蝶
 主として東京附近の平地に普通なる種類を選んで簡明に圖解せりと云ふ。
 手紙 禪丸山小羊編 五六 小中の 三三 啓典社 〇八五 宗教 禪
 古今名僧の禪的精神生活が其往復の手紙の中に活躍するを見る。
 △實地鐵筋コンクリート工學 瓜生康一 五七 中 五〇〇 博文館 三三〇 工學 鐵筋コンクリ
 特に應用の方面を詳述せり。
 獨逸富強論 獨、ヘルフェリヒ 五七 小中の 三三 公民同盟 〇八〇 産業 獨逸
 過去二十餘年間に於ける獨逸國民の富力發展の趨勢を詳叙す。

新國勢 力の跡 西村 醉夢 五六一 小 三九 富山房 〇〇 歴史 日本歴史—雜
 史觀 華山の人格、水野忠邦の政策、狹生徂徠の學風其他を評論したり。
 ナ ザ レ の 人 米、アングソン 五六一 小の 五六 日本基督教 二〇〇 宗教 基督
 耶蘇と其生涯に關する重要問題を耶蘇自身の見地に立ちて觀たるもの。
 日本 アルプスへ 窪田 空穂 五七 小の 三〇 天 弦 堂 〇八五 地志 紀行—日本
 槍ヶ岳登記、健岳登山記等を收め、高地にて詠める歌集を附す。
 △理論 日本刑法通義 日本法學會編 五六一 中 六七 日本法學會 二〇五 法律 刑
 學理と應用との調和を全からしめんことを期したりと云ふ。
 △増訂 日本刑法 法泉 二 新 熊 二版 五七 中 一四〇 有 斐 關 五三 法律 刑
 本版に於ては刑法學說の沿革、錯誤、刑の執行、賭博罪、加重強盜等に關する説明を補正す。
 善短 日本人心の解剖 元田 作之進 五七 小の 二四〇 廣 文 堂 〇〇〇 社會 社
 長 特に日本人の短所は忌憚なく言明せり。
 二坪より 日本庭造真行草三體圖案 杉本文太郎 五六一 中 一〇 建築 書院 三〇〇 美術 庭
 百坪まで 新書 築庭御心得と仕様書及工費豫算書を附す。
 日本版畫史(美術叢書) 佛、ザイドリツツ 五七 一 中 一三 向 陵 社 一〇五 美術 浮 世 繪
 第五輯) 蘇武綠郎 譯 墨摺版畫と色摺版畫を論ず、挿畫數十圖あり。
 △認識の對象 獨、リツケルト 五七 小の 四九 岩 波 書店 一〇五 哲學 哲 學
 此書は原著者の哲學の根本思想を述べたるものなりと云ふ。
 母 と 子 下 田 次郎 五七 小の 三〇 實業之日本社 〇七五 教育 初等 教育

品 性 論 講 義 英、スマイルズ 五六一 小 四三 光 世 館 〇六〇 語學 英 語
 原文を掲げ一節毎に譯註を附せり。
 問題 物理學解法講義 高垣 雷太郎 五六一 中 一六七 高 岡 書店 一〇五 理學 物 理 學
 千二百餘の物理學問題を解説す、主として官立學校入學受驗用。
 方 丈 記 評 釋 內 海 弘 藏 五七 小の 一七四 明 治 書院 〇〇〇 文學 方 文 記
 一節毎に註釋と文評あり、索引を附す。
 △法律學說判例要旨集 第一卷 法律評論社編 五七 小の 二〇五 法律 評論 社 四三〇 法律 判 決 例
 最近四ヶ年間の判例と學說の要旨を網羅せり。
 凡 人 淨 土 相 馬 御 風 五七 小 一三〇 新 潮 社 〇六 文學 文學—雜 集
 著者最近の感想を縦横に記録せるもの。
 増 鏡 新 釋 和 田 英 球 五七 小の 四四 明 治 書院 〇〇 歷史 日 本 歷史
 前著増鏡詳解を縮刷し、註解は上欄に標出せり。
 英 文 英 文 草 片 山 寛 五七 小の 二八 富 山 房 一〇〇 語學 英語—英文和譯
 雜誌學生に連載せる英和對譯の短文を集む。
 山路 愛山講演集 第一編 山路 愛山 五七 小の 一七 大 江 書房 〇三 文學 演 說
 本編には開國五十年史梗概、見る人、導く人、治むる人三將論を收む。
 雄辯 二千五百年史 福田 吉藏 五七 小の 三三 大 日 本 雄 辯 會 〇〇 文學 演 說
 世界雄辯の發達を詳述せり。
 立體幾何學直線及平面 尾崎 敏郎 五七 小の 一四 大 倉 書店 〇五 數學 幾 何 學
 初等立體幾何學の基礎となるべき直線及平面に就て簡易に説明せり、初等數學叢書第二十三編とす。

△應用實驗學梗概 波多野貞夫 五七 一中 二〇六 岩波書店 二〇〇 理學理學

科學的諸進歩改良に必需なる實驗を有効ならしむる方法を述べ。

我 觀 南 國山 木 實彦 五七 一中 四〇〇 東京堂 一五〇 地誌紀行—外國

主として琉球、臺灣、瓜哇等への紀行文を集む。

果實蔬菜罐詰製法 (通俗産業叢書) 第三十編 神宮寺 榮 五七 一中 二六六 博文館 〇七五 農業罐詰

農商務省興津園藝試驗場に於ける多年の實驗を基礎とす。

各國工場法要義 田邊 好一 五八 一小 一八八 廣文堂 〇六〇 工業工場法

工場法の各條を説明し各國立法の精神を明かにす。

巨人 南 洲山崎 櫻岳 五八 小中 三三六 靜思館 〇七五 傳記西郷隆盛

興味ある評傳。

銀行法規提要 帝國地方行政學會編 五八 一小 一六〇 帝國地方行政學會 三〇〇 經濟銀行—法規

大正五年六月現行の法令中り銀行に關係あるものを彙集分類す。

勤王論之發達 (歷史講座) 第六編 本多 辰次郎 五八 一小 三三三 日本學術普及會 〇〇〇 歷史日本歷史

南北朝時代より幕末に至る勤王論發達の跡を叙述す、殊に江戸時代に就て精細なり。

△刑事政策論 網菊池 軍平 五八 一中 一八二 巖松堂 一〇〇 法律刑事政策

所謂社會刑法學派の保護刑主義を駁したるもの。

作文現代新美文 大庭三郎編 五七 一小 三三三 山口屋 〇〇〇 語學日本語—作文

新年、四季、人倫等に分類して短句を集めたるもの、近代名家文範を附す。

電氣高等數學入門 大河内 治 五八 一中 三三三 電氣工學講習會 一三〇 工學數學

電氣事業主任技術者資格試驗三級以下の受験者等に適す。

×現代式顧客待遇法 清水 正巳 五七 一小 二二八 佐藤出版部 〇五〇 商業商業

小僧にもわかるやう平易に説きたるもの。

國民道徳要義 深作 安文 五七 一中 五八八 道館 二〇〇 倫理倫理

我國の地理歴史、家族制、國體、武士道及時勢の進運と國民道徳等を論ず。

△語原類解 松村 任三 五七 一中 五二九 善 三〇〇 語學日本語

日本語の動詞、形容詞、副詞、數詞及び活用例等の語原を研究せるもの。

小野名 古今將棋手合 小野 五平 編 五八 小中 七六六 博文館 一八五 諸藝將棋

人講評 古人の手合七十番今人の手合六十一番を收む。

英和對譯最新商用通信 中山 五郎 三版 五七 一中 四七七 華房 二五〇 商業商業作文

商用文の法則と作例を多く掲ぐ。

坐禪指南 (禪林名著文庫) 第一篇 蘆津 實全 五八 一小 三〇〇 榮文館 〇〇〇 宗教禪

坐禪の修行より見性、悟道に至る順序を説く。

增訂參考動物學講義 山鳥 吉五郎 五版 五七 一中 四六六 實文館 三三〇 理學動物學

中等學生の參考用。

增訂算術模範例題解法 野口 秀敏 五七 小中 五五五 敬文館 〇八五 數學算術

中等教科書にある難問を網羅す。

時事連想 田尻 稻次郎 五八 一中 八八八 誠文堂 三三〇 經濟經濟

組合、工業、金融、收入、公債、設計、食料、水理に關する最近の研究。

△實工場管理神田 孝一 五版 五八 一中 七五五 光文館 三〇〇 工業工場管理法

著者多年專賣局の煙草工場に勤務せる經驗を基礎とす。

△實踐 際 爲 替 小 林 綠 再版 一 中 二〇八 實 文 館 三〇六 經濟 爲 替

信 濃 の 山 津 島 壹 城 五七 一 小 一六六 松 陽 堂 〇三六 地誌 信 濃 國

肅 親 王 石川 安次郎 五七 一 中 一〇六 警 醒 社 一〇〇 傳記 肅 親 王

書 畫 鑑 定 法 平 渡 緒 川 編 三七 二 中 二三〇 書畫 研究會 二〇〇〇 美術 書

諸官立 入學 試驗 問題 集 (大正 五年 度) 家 田 德 二 編 五八 一 小 三〇〇 芳 流 堂 〇七七 教育 入 學 試 驗

眞 宗 通 解 全 書 第 二 柏 原 祐 義 五七 一 中 四四 無 我 山 房 三三〇 宗 教 眞 宗

心身 科 學 的 統 一 法 檢 山 銳 再版 一 小 一〇〇 研 精 社 〇〇六 醫 學 衛 生

新 子 規 句 集 千 葉 鬼 村 編 五八 一 小 三三 東 亞 堂 〇〇六 文 學 俳 諧

新 渡 航 法 永 田 彌 編 五七 一 小 四〇 日 本 力 行 會 〇七五 經 濟 移 民

新 譯 紫 式 部 日 記 與 謝 野 晶 子 五七 一 小 二七六 文 淵 堂 一三〇 文 學 日 本 文 學

國民須知の事項を平易に述べ。 模範 世界的 人物 第一集 龍口了信編 五七 一 小 一八四 六 盟 館 〇〇五 傳記 傳 記

△戰 争 と 國 際 法 立 作 太 郎 五八 一 中 六〇 外 交 時 報 社 三三〇 法 律 國 際 法

續 世 界 世 水 圖 說 志 賀 重 昂 五八 一 中 六三 富 山 房 一〇六 地 誌 世 界 地 誌

寸地 宅地 利用 實 行 の 指 導 片 山 熊 太 郎 五七 一 中 一三三 止 善 堂 〇〇〇 農 業 宅 地 利 用

忠 義 の 哲 學 米、ロイス 鈴木 半三郎 譯 五七 一 小 三三 洛 陽 堂 一〇三 倫 理 倫 理 學

中等 模範 入 學 準 備 書 東 京 教 育 會 編 五八 一 中 三三六 東 雲 堂 〇三三 教 育 入 學 試 驗

天下の 朝鮮 金剛 山 寫 眞 帖 德 田 寫 眞 館 編 五八 一 大 三〇〇 德 田 寫 眞 館 (朝 鮮) 三〇〇 地 誌 金 剛 山

通 俗 經 濟 文 庫 第 一 卷 日 本 經 濟 叢 書 五七 一 中 三〇〇 日 本 經 濟 叢 書 會 一三〇 經 濟 經 濟

通 俗 世 界 歷 史 第 一 編 英 吉 利 帝 國 坂 本 健 一 五八 一 中 一四四 博 文 館 〇〇五 歷 史 英 吉 利

一讀英國の過去現在を了得せしむ、叙述簡明。

五

新潮を綴り方教授の實際 花田甚五郎 五七 中 一七九 教育新潮研究會 〇七五 教育教授法—綴り方

強い身體を造る法 川合春充 五八 小の 一四六 武俠世界社 一七〇 醫學衛生

手輕に家庭西洋料理 櫻井ちか子 五八 小の 一三三 實業之日本社 〇六五 家事料理

西洋料理を平易に述べ、器具の圖解と材料の説明を加ふ。

轉地山と海 竹中繁次郎 五八 小の 一三三 洛陽堂 〇七〇 醫學衛生

體質と疾病の種類に依り轉地療養には山と海の何れを選むべきかを教ふ。

陳列店內と店前 (實務叢書 第七卷) 井關十二郎 五七 小の 一三三 實務叢書發行所 一五〇 商業商店

店前及店内の現代式構造法、商品の陳列法等を述ぶ。

獨逸の大銀行及金融 富岡久次郎 五七 中 一五三 有斐閣 二八〇 經濟銀行

獨逸大銀行の發達、業務等を説く。

獨逸の膨脹 佛、アンドリヨン 海軍水交社譯 五八 小の 一四三 春陽堂 一三〇 地誌獨逸

精神、物質兩方面の膨脹と其原因結果を觀察したるもの。

獨逸文法辭典 附詳解獨逸文典 片山正雄 五八 小の 一八八 博育堂 二八〇 語學 獨逸語—文典

獨逸語の文法及慣用法と單語に就きて説明し、系統的的文典を附す、數ヶ年間苦心の良著なり。

藤村文集 島崎藤村 五八 小 一三六 春陽堂 〇六五 文學 日本文學—文集

著者の青年時代の文章のみを集む、利根川だより、西花餘香、葡萄の木の下、七曜のすきび其他。

動物と人生 宮島幹之助 再版 五七 中 一四〇 南山堂 三〇〇 理學動物學

猿、馬、牛、犬外六種の動物と人生との關係を詳述す。

詳項 東洋歴史年表 中村久四郎 編 五七 小の 一八六 博育堂 〇七五 歴史 東洋史—年表

黃帝の一統より袁世凱の死去に至るまでの事項を詳解す。

投入花の寫眞、圖畫を挿みて對照に便す。

日本アルプス登山案内 矢澤米三郎 編 五七 小 一三三 岩波書店 一〇〇 地誌 日本アルプス

著者等長野縣の中等學校に職を奉ず、屢登山して此峻嶺を紹介す。

日本 一 周後編 田山花袋 五八 小 一五六 博文館 二二〇 地誌 紀行—日本

後編には關東、奥羽、中部、北陸、北海道を紹介す、文に興味あり。

日本の模範工場 後藤喜間太 五八 小の 一四三 報文社 一三三 工業工場

日本の模範工場視察記。

△日本民法 第三編 債權第六卷 石坂音四郎 五七 中 一四三 有斐閣 三〇〇 法律民法

本卷は契約の續きにして契約の解除に筆を止む。

改 農業と産業組合 松崎藏之助 六版 五八 中 一四〇 有斐閣 一八〇 農業農業

農業と農家經濟及産業組合の要旨を述ぶ。

芭蕉書簡集 (俳諧名著文庫 第六編) 俳書堂編 五七 小の 一七〇 俳書堂 〇五〇 文學俳諧

芭蕉翁の書簡三百二十二通を收む。

科學的 病氣と食物衛生 新報社編 五七 小の 一三三 丸山舎 〇七五 醫學衛生

食餌に關する一般的研究と、病の食養に就ての記述とを收む。

關 布石攻合法 中川龜三郎 五八 中 一六六 大阪屋號 一三〇 諸藝園

六十餘篇に就て陣立、攻防收束等を説明す。

佛教國民の理想 高楠順次郎 五七 小の 三三 丙午出版社 二〇 佛教佛

不用意が招ぐ愛兒の死 河合三郎 五八 小の 三四 洛陽堂 二〇 家事育 兒

文學に現我が國民思想の研究 津田左右吉 五八 中 五三 洛陽堂 二〇 文學國文學史

法政經濟叢書 (第八、九、十) 巖松堂編 五七 小 二二 巖松堂 二四 法律法 律

簿記計理學綱要 木村植楠 五六 中 三七 寶文館 三〇 產業簿 記

翻譯の仕方と名家翻譯ふり 東草水 五七 小の 三二 實業之日本社 〇八 語學 英語—英文和譯

衛生無病生活法 天野誠齋編 五八 小の 四六 廣文堂 二〇 醫學衛 生

名家松韻 濤聲 新井無二郎 五七 小の 二五 共益商社 〇七 文學 日本文學—文集

文部省教員檢定受験案内 佐藤鍾太郎編 五八 小の 三六 東華堂 〇六 教育教員檢定試驗

謠曲大辭解 皇學書院編 三版 五七 中 八四 よろこび社 三〇 諸藝 謠 曲

犬井貞恕著謠曲拾葉抄に校訂を加へたるもの。

立志奮闘 森村市左衛門 五八 中 五〇 榮文館 一〇 倫理教 訓

輪廓圖 案 續卷 鹿島英二編 三版 五七 大 三 深田圖案研究所 二〇 美術 圖 案

和文は斯の如く英譯せよ 間崎勝義 五八 小の 一七 敬文館 〇六 語學 英語—和文英譯

中學上級生以上の程度、前著英文は斯の如く和譯せよの姉妹篇なり。

第二 幼年書類

書名	著者名	発行年月	冊数	頁數	發行所	定價	分類	件名
幼年百話の庫	夏の巻 少年通俗教育會編	五七	一小	五三	博文館	〇五		
トモダチお伽噺	藤川淡水	五七	小の	二七	朝野書店	〇六		
幼年八月月讀	本幼年世界編輯部編	五八	一中	二〇	博文館	〇三		

第三 小説及劇

書名	著者名	発行年月	冊数	頁數	發行所	定價	分類	件名
陷穽	(近代西洋文藝叢書 第十二册) 佛、ゴンクワル 前田晃 譯	五八	一中	四二	博文館	一三		
俠一客忠	治平井 晩村	五七	小の	三三	大日本雄辯會	〇七		

△化學工業全書 第十六册 高松豐吉等編 五八 一 四四 南江堂 三〇 工業化學工業
 木材乾留の原料、生産物及其誘導法等を述ぶ。
 應用カ ッ ト 集 第一輯 ウィンドウ畫報社編 五九 一 大 一〇〇 ウィンドウ社 二〇 美術圖案
 種々のカット四百九十六種を收む。

此の如き邦文は如何に英譯する？ 山川作治郎 五九 一 小 二六 二 松堂 〇六 五 語學 英語—和文英譯
 和文英譯は言葉を譯さず其意味を譯すべきことを教ふ。

漢詩 獎 勵 恩 田 重 信 五八 一 小 一八 恩田重信 〇三 五 文學 漢詩
 主として和漢名家の漢詩を解釋せるもの。
 漢文 譚 山、岸 輯 光 五八 一 中 三九 奎文館 〇六 五 語學 漢文

△銀行 原 論 服部文四郎 四版 五八 一 中 一〇三 同文館 三〇 四 經濟 銀行
 本版に於ては本書全部に亘りて誤植脱漏を改正し又訂正したる箇所も多し。

現行保險法令集 伊東秀壽 五八 一 小 三二 巖海堂 〇〇 〇 經濟 保險法 法規
 内地、臺灣、關東州に現行の保險に關する法令を集む。

工場法 註 釋 江藤玄三 五九 一 中 五九 芳流堂 一〇 五 工業 工場法
 工場法の大體を説明し、我國工場法の各條を註釋せり。

國史叢書 關原軍記大成 黒川眞道編 五八 一 小 四二 國史研究會 二〇 〇 歷史 關ヶ原役
 原本四十五卷の内本編には第十卷までを收む。

△國民經濟學原論 第八、九册 獨、シユモラ 一 五九 二 中 七六 富山房 三〇 〇 經濟 經濟
 此二册は總覽なり第九册を以て本書完譯す。

△最近工業藥品製造法 喜多源逸 五八 一 中 六六 丸善 三〇 〇 工業 化學工業
 鹽素、窒素化合物、アルミニウム化合物、炭化石灰、白金及ニッケル接觸劑、ラヂウム、人工甘味料等の製造法。

最新日本地圖 富山房編 五八 一 大 四六 富山房 一〇 〇 地誌 地誌—日本地圖
 日本全圖を三十餘に區別す、最近の各種統計表を添ふ。

名家山水紀行 文章講習會編 五八 一 小 三八 東盛堂 〇三 五 文學 日本文學—文
 主として現代名家數十名の紀行に關する美文を蒐む。

自然と愛金子 蕭園 五九 一 小 三三 新潮社 〇五 五 文學 日本文學—文集
 四季の自然に關する文章、兒を愛する歌等を收む。

商業事務の取扱ひ方 蘆川忠雄 五八 一 小 三七 佐藤出版部 二〇 〇 商業 商業道德
 修養問題を研究し、之を事務に活用する成案を發表す。

寫眞のうつし方 三宅克己 再版 五八 一 小 一八 阿蘭陀書房 〇五 五 諸藝 寫眞
 説明懇切、初學者の好手引。

宗教と人生 帆足理一郎 五九 一 小 四三 洛陽堂 二〇 〇 宗教 基督教
 主として基督教と人生に關する論文を集む。

古今笑話 養漫筆 足立栗園 五八 一 小 二六 明誠館 〇六 〇 倫理 修養
 修養處世等に關係ある笑話漫筆を集む。

手工と圖案 藤五氏策 五八 一 中 四六 實業之日本社 〇五 五 工業 圖案
 東京女高師附屬小學五、六學年兒童の工夫製作物より三百餘種を集めたるもの。

唱名中西赤吉 五九 一 本 一五 抒情詩社 〇四 五 文學 和歌—歌集
 著者の短歌集なり、哀調を帯ぶるもの多し。

滋養食物の研究 伊藤正毅 三九 小の 二六 實業之日本社 〇五 醫學 飲食 物 化學的に又經濟的に食物を研究す文章平易。

眞宗全史 史村上 專精 五九 一 中 八五 丙午出版社 三〇〇 宗教 眞 宗 眞宗各派の歴史を記述したるもの、著者が心血を注ぎし大著述、人名、項目兩索引を附し眞宗の發達を知るに最も便益多し。

新工場法の運用 井關十二郎編 五八 一 中 四八 同 文 館 〇七五 工業 工場 法 農商務省商工局長、工場課長、工場監督官其他の講話を集む。

數學史 (數學叢書) 佛、ギアイエー 譯 五九 一 中 三〇 大倉書店 一〇五 數學 數學 史 古代より十九世紀に至る歐洲各國の數學の沿革を述ぶ。

清教徒神風連 福本日南 五九 一 小の 三六 實業之日本社 一三〇 歴史 神 風 連 清教徒の篤信、黨の諸豪及明治九年熊本に於ける壯圖を叙す。

成功世界的人物 第二集 龍口了信編 五七 一 小 一八 六 盟 館 〇五 傳記 傳 記 高峰讓吉、久原房之助、澁澤榮一、エヂソン、田村又吉以上五人の評傳。

戰線に立ちあつて 獨、ヘツケル 譯 五八 一 小の 三三 至 誠 堂 一〇〇 兵事 歐洲 戰 亂 一名を獨逸の肉彈と云ふ趣味ある從軍記。

生死禪と武士道 (禪門叢書) 横尾賢宗 五九 一 小の 三六 丙午出版社 一〇〇 宗教 禪 禪と武士道との關係、其及ぼせる影響等を説く。

△續 原子論 水野敏之丞 五七 一 大 二〇 丸 善 三〇〇 理學 原 子 原子番數と振動數、光電効果、螢光及燐光、可壓縮原子其他。

ナポレオンの妻 永代靜雄 五八 一 小の 三四 實業之日本社 〇六 傳記 ジョゼフィーヌ 一 苦しき鍛練を経て人格の光を發揮したる佛國皇后ジョゼフィーヌの一代を叙す。

漢和 大日本史論 贊集 徳川光圀編 五八 一 中 六三 大正書院 三〇五 歴史 日本歴史—史論 兩文の大日本史には削除せられたる贊のみを集めて和譯せるもの。

近ごろの商賣百話 金々先生 五八 一 小の 二六 雲泉書屋 〇五 商業 商 業 小資本にて出来る商賣四十五種を收む。

力の生活 前田懸雲 五九 一 小の 三六 實業之日本社 〇八五 宗教 佛 教 佛敎哲學の上より人生の根本問題を研究す。

縮樗牛全集 第六卷 高山林次郎編 五九 一 小 七六 博文 館 一〇五 叢書 高山樗牛 日記及消息、姉崎正治等編 少年時代の日記「光陰誌行」等を増補す。

通俗經濟文庫 卷二 日本經濟叢書 五八 一 小の 三九 日本經濟叢書 刊行會 一三〇 經濟 經 濟 諸人儉約重寶記、生財辨、教の小づち、絹布重寶記、百姓話訓、現銀大安賣等を收む。

輓電氣工業 業 中澤重雄 五七 一 中 三三 博 愛 館 一三〇 工業 電氣 工業 電氣學の原理と工業的應用とを簡明に記述す。

電力輸送 (電氣工學初等叢書の内) 建築書院編 五八 一 小の 三九 建築書院 〇五 工業 電氣 工業 電力輸送の概念を平易に説明す。

東京府各學校入學試験問題及解答 三友堂編 五八 一 小の 一〇九 三 友 堂 〇三 教育 入學 試験 東京府下にある官公私立中等諸學校大正五年度の入學試験問題を集め解答を附す。

動物學講義 中卷 石川千代松 五九 一 中 五二 芳 流 堂 三〇五 理學 動物 學 中卷には原生動物より節肢動物までを記す。

富藏の經濟的及社會政策的利用論 佐田弘治郎 五九 一 小の 一六 東 京 堂 〇八〇 經濟 富 藏 要するに富藏による起業會社の設立安なり大に味ふべき節あり。

南進策と小笠原群島 山田 毅 一五八 中 二英放天義塾 一五〇 地誌 小笠原島

著者小笠原諸島を視察し其開發策を述ぶ。
録抄 日本外史講義 淵 脇 遼 五九 小の 三〇七 東京出版社 〇〇〇 歴史 日本歴史
解釋詳密。

△日本債權法 鳩山 秀夫 五九 中 四〇五 岩波書店 一八〇 法律 民法
東京帝國大學に於ける講義の要領なり。

日本住宅の保全と諸什器取扱法 杉本文太郎 五九 中 三三六 建築書院 三〇〇 工學 住宅
記述平明、附録室内裝飾法心得あり。

白隠禪師法語錄釋 毒澤編 五九 小の 一三三 誠進堂 〇〇五 宗教 觀
坐禪和讃、夜船閑話、遠羅天笠、辻談義等を收む。

幕末明治裏面史 藤森政次郎 五九 小の 三〇〇 日本書院 〇五五 歴史 日本歴史
浦賀の砲聲より乃木大將の死に至る、失敗の歴史、奸策の事實等も交ぬ。

犯罪と個性の教育 伊、ロム、ブ、ソ、イ 五九 中 四六六 隆文館 一八〇 社會 犯罪
遺傳 原名を惡の原因と改善と云ふ。

副業養鶏法 仁部富之助 五九 中 三四四 岡村書店 〇七五 農業 養
日語體、振り假名付。

不動産競賣手續便覽 關谷 善一 五八 中 三二二 松堂 二〇〇 法律 競賣法
實際家の便宜を主とす、裁判例を添ふ。

佛蘭西文法 折竹 錫 五九 小の 三三三 博育堂 一七〇 語學 佛蘭西語—文典
秩序的に佛蘭西文法を講ず。

法政經濟叢書 第十二、十七編 巖松堂編 五八 中 七四六 巖松堂 一八〇 法律 經濟
第十二編島村他三郎著行政法總論、第十六編嘉山幹一著民法總論、第十七編大田哲三著會計學綱要。

實驗民間療法 伊藤 尚賢 五八 中 三三五 新橋堂 一〇〇 醫學 治療
一般治療法と藥の效能と日常食品の藥效とを述ぶ。

無線電信電話のはなし 横山 英太郎 五九 小の 三三三 電友社 〇七五 工學 無線電信
無線電信及電話の技術と事業の一斑を通俗的に述ぶ、某所の講演を骨子とす。

陸奥千鳥(俳諧名著文庫) 天野 桃 五八 小の 三三三 俳書堂 〇〇五 文學 俳諧
元祿九年著者が常磐奥羽に行脚したときの俳句を集む。

實地盛花瓶華秘法 乾 範 勉 五八 中 三三三 弘學館 一〇〇 諸藝 生花
文章平易、初學者に適す。

蘭領東印度事情 外務省編 五七 大 三三三 啓成社 二八〇 地誌 蘭領印度
蘭領東印度の地理、氣候、住民、現況等を詳述す。

陸海軍出身案内 大導 寺 啓 五八 小の 三三三 東華堂 〇三六 兵事 兵事
附録として陸海軍諸學校試験問題集及參考書を掲げたり。

第二 幼年書類

書名	著者	發行年月	冊數	頁數	發行所	定價	分類	件名
お伽新日本	巖谷 小波	五九	小の	三三三	大倉書店	〇六〇		
少年歴史の庫夏の巻	少年通俗教育會編	五八	小	三〇〇	博文館	〇五五		

著名大ニの備必館書圖

幼年九 月 讀 本 幼年世界編輯部編 五九 中 一〇〇 博文館 〇三五
 烈女秀(教育講談第十一編) 早川 貞水 五九 小の 一 大江書房 〇一〇

第三 小説及劇

書名	著者名	再版	冊数	頁數	發行所	定價	分類	件名
鬼の面谷崎潤一郎	再版	五九	小の	三〇	啓典社	〇八五		
怪談海魔地獄江見水陸	再版	五八	小の	三〇	廣文堂	〇八五		
絶島十五少年物語	葛原 尚等譯	五九	小の	三〇	博文館	〇八五		
春浪快著集 第二卷	押川 春浪	五九	小の	六三	大倉書店	一〇〇		
潜艇大英國の危機	英、コナンドイル 宮家 壽男譯	五八	小の	三三	如山堂	〇七五		
時は過ぎゆく	田山 花袋	五九	小の	三三	新潮社	一〇〇		
八犬傳物語	大町 桂月	五九	小の	四四	新潮社	〇八五		
ユイモア十篇	米、マーク・トウェイン 佐々木 邦譯	五九	小の	三八	丁未出版社	〇八〇		

大正五年十月十八日印刷納本 編輯兼發行者 東京市四谷區谷町一丁目拾八番地 東京市神田區美土代町貳丁目壹番地 東京市神田區美土代町貳丁目壹番地 日本圖書館協會編輯部 (一ヶ年前金壹圓郵税不要)

早稻田大學教授 神尾錠吉先生新著

神尾式速算法

菊判總クロロス金文字入色箔附 百七十八頁
 ◎日本一の速算法大家、神尾先生獨特創案の速算法は今開始して出版せられたり、先生の速算法は直覺的暗算と簡略算とを併せたるものにして其速かなること實に神の如し、先生の速算法は實業及中等學生は勿論小學兒童に對しても其妙法を應用教授せざる可らざるを以て全國小學校職員並に中等諸學校學生は必ず一本を備へざる可らず

定價金壹圓

郵送料八錢

井上十吉先生英文原著 原文對譯・約四百頁
 奈良靜馬先生譯註 四六判布裝金文字入

ロイド・クライヴ詳解

定價八拾錢
 送料金八錢

◎齋藤秀三郎先生曰く「英語を學ぶ者はクライヴ傳一卷を熟讀玩味せよ、此一巻は以て英語の何物たるかを悉く體得するに足る」と眞に是れ英語學生の金科玉條といふべく受験學生に唯一最上の虎の巻なり、詳解なき類似の小冊子あり、奈良先生譯註と御指定を請ふ

發行所 東京牛込神樂坂通 株式會社 南北社出版部

振替東京一九四番 電話番町三八〇四番 六〇三九番

早稻田大學教授 五十嵐力先生校閱
 三輪田高等女學校長 三輪田元道先生序文
 成女高等女學校長 宮田 修先生跋文
 早稻田大學文學士 内山 舜氏著
 深川圖書館員

最新刊

現代女子作文

菊判五號活字
 五百頁上製
 裝釘優美高雅
 定價金壹圓四拾錢
 送料金拾貳錢

女子が作文の参考書にして真に優良なるものが果して何處にありませう？ 少くとも此新時代の新婦人が新思想を表現すべき好工夫を教へ、最適の様式を示したものが已に世に出てをりますか？

本書は之れが爲に生れたのであります。

記實文は何れも新らしく勝れて美しいスケッチです。書翰文に於ては、著者が在來のに反旗を翻されたものです。論説文さへ、單に讀物として見ても非常に趣味ある、實益あるものです。そして卷頭「文章の作り方」は簡にしてよく作文法の要諦を掴んで見せて呉られたものです。

新文章難を嘆ずる女生の多きこの頃を、是非一本の御備付けを御薦め致します。

發行所

東京神田錦町一丁目二番地
 電本局四三八六 振替三三九三三

博育堂

日本圖書館協會選定 新刊圖書目錄 第三卷 第十一號

第一 一般書類

書名	著者名	發行年月	大小冊數	頁數	發行所	定價	分類	件名
△雨	岡田 武松	五二〇	小中	五一丸	善	一	理學	雨
雨、雪、雹、霰、霜、露其他に就て主なる事實と學說とを述ぶ。								
近海の伊豆	里見 謹吾	五二〇	小中	四〇	放天義塾	一	地誌	伊豆諸島
伊豆七島の歴史、政治、風俗習慣、産業交通、學事、及著者の視察記等を收む。								
印度の神々	姑射若水	五九	中	三	向陵社	一	吾	宗教神話
吠陀教の神々、近世ヒンヅー教の神々、劣位の諸神を述ぶ。								
印度美術史	英、クイマラスワミ 蘇武線郎等譯	五九	小	二四	向陵社	三〇〇	美術	印度美術
印度教、佛教、回教に關する美術史。								
宇宙進化論	新城 新藏	五九	中	二四	丸善	一	理學	天文學
宇宙の構造、天體の運動及物理的狀態等を講述す。								
△運動生理學	吉田 章信	五〇	大	六三	南江堂	三〇〇	醫學	運動生理
主として運動の身體に及ぼす諸影響に關して研究調査せるもの。								
英國功利説の研究	大日本學術協會 中島 力造	五九	中	三四	大日本學術協會	一〇〇	倫理	倫理
ベンサム、ミル、シヂニウキツク、ラシダール等の學說を研究す。								

△………専門的のもの
 ×………專近のもの
 其他は………一般的のもの
 大 四六二倍以上
 中 四六列
 小 四六列
 菊判半載以下

英語正解法 中編 山田 春水 五二〇 小中の 三〇〇 建文館 一〇〇 語學 英語—英文和譯
 本編は前置詞に就きて講述す。
 大鏡 (國文口譯叢書第二篇) 芳賀 矢一 五九 小中の 五五 文會堂 二〇〇 歴史 日本歴史
 原文と口譯を對照するに便ならしめ、卷末に註解を附す。
 歐洲戦後の財政及金融 田尻 稻次郎 五九 小中の 一七 誠文堂 二〇〇 經濟 財
 歐洲戦亂後の經濟情態豫想、日本財政經濟の現在及將來、歐洲戦亂の財界及金融界に及ぼすべき影響を收む。
 歐洲の動亂 附青島及南洋 惠美 東 吉 五九 中 四六 日本時報社 二六 兵事 歐洲戦亂
 歐洲動亂と最近國際問題、大戰亂の波動等を叙し最近大戰亂の進行を増補す。
 歐米の諺と格言(原文附) 大澤 定吉 編 五九 小 三五 竹泉社 〇八〇 倫理 金言及警句集
 多くの諺と格言を集め之を八十五に分類す。
 快心 錄 横山 達三 五九 小中の 五四 日東堂 二〇〇 隨筆 隨筆
 醉中語、勝負、天才奇説、雷神論、出たら芽の記、亂山の中より、吐月峯等。
 家禽審査法 釘本 昌二 五八 小 三三 明文堂 二〇〇 農業 家禽
 多くの圖を挿みて説明せり。
 學校精神検査法指針 上野 陽一 五九 小中の 三〇 心理學研究會 〇六五 哲學 兒童心理
 兒童精神能力の検査法及知能の検査を説明す。
 家庭看病法 大關 和子 五九 小中の 三三 日進堂 〇八〇 醫學 看病
 主婦に向つて一通り家庭の看病心得を説きたるもの。
 土木簡易測量法 小澤 啓太郎 五九 小中の 四四 辰文館 〇五 工學 測量學
 初學者の爲に各種の地形を簡易なる器械にて測量する方法を説く。

官營簡易生命保險通解 小野 塵一 五二〇 小中の 六六 文陽堂 〇三三 經濟 生命保險
 本年十月より開始されたる、簡易生命保險を平易に解釋す。
 機械製作法 秋月 源太郎 五九 中 二六 大日本工業學會 二〇〇 工學 機械
 一般普遍的の材料にて實際製作の方法を説きたり。
 自動教育革新の根柢 自動教育研究會編 五九 中 二五 明誠館 〇七〇 教育 教育
 自動教育上より教育の革新を論ず、自動主義教育實際叢書の第一編なり。
 教科書の活用 地理教授上の諸問題 島田 牛稚 五九 中 三六 教育新潮研究會 〇七五 教育 教授法—地理
 地理教授の精神、地理的要素の取扱等を述べ、教育新潮叢書の第二期第十卷とす。
 教科書の活用 歴史教授上の諸問題 白井 規一 五二〇 中 三七 教育新潮研究會 〇七五 教育 教授法—日本歴史
 を主としたる 教育新潮叢書の第二期第十一卷なり。
 近世化學工業前編 小西 常助 編 五八 中 三三 同濟號(大阪) 二六〇 工業 化學工業
 主要なる化學工業品に就きて其生産輸出入の狀況沿革製造法等を説きたるもの。
 △近世土木工學要覽 中卷 長崎 敏音 五九 小 五六 大倉書店 二〇〇 工學 土木工學
 中卷は施行法、鐵筋混凝土、道路、隧道、鐵道、拱に分る。
 天龍金原 明善 水野 定治 五九 中 三八 積文館 一三〇 傳記 金原明善
 翁の傳記、事業の一斑、訓話、逸事等を記す。
 藝術上の理想主義 赤木 桁平 五二〇 小中の 四四 洛陽堂 一三〇 文學 文學
 著者の文藝批評に關する論文を集む。
 結婚前後の修養 田中 久編 五九 中 三三 尙榮堂 〇六〇 倫理 女訓
 棚橋、鳩山、跡見、山脇、三輪田、喜悅、下田七女史の女訓を編む。

受驗參考 研究的算術 長澤龜之助 五九 一小 二四 寶文館 〇七五 數學算術
 自習之友 高等專門學校受驗程度とし入學試験問題を引用せり。
 受驗參考 研究的代數學 長澤龜之助 五九 一小 三九 寶文館 〇八五 數學代數學
 自習之友 問題解決の指針を示せり。
 現代名家書翰集 富山房編 三版 五二〇 一小 五七 富山房 一〇〇 語學 日本語作文
 書翰文講話及文範の別篇なり。
 △工業 病論 田代伊與治 五九 一中 四四 内科學雜誌社 三三〇 工業 工業衛生
 石炭山、金屬山等に於ける工業衛生及疾病を説く。
 工場法 解説 西内才三 五九 一中 一四 正誠舎 〇〇六 工業 工場法
 工場法の必用を論じ法規を解説す。
 工場法の理論と實際 岡崎華堂 再版 五九 一中 二七 公報社 一〇〇 工業 工場法
 歐洲列國工場法の由來及沿革等を述べ工場法を説明す。
 △廣文 庫 第一冊 物集 高見 五二〇 一大 一三三 廣文庫刊行會 七五〇 事業 事彙
 同じ著者の羣書索引に載せたる和漢書及佛書中に就て其記事の參考に用あるものを抄録す。
 口御 文章 芳賀矢一編 五九 小中 二六 光融館 〇七五 宗教 眞宗
 眞宗の御文章を東京語を標準としたる現代語に口譯す。
 縮刷と同時に増訂せり。
 刷作文講話及文範 杉谷虎藏編 五二〇 小中 七八 富山房 一〇六 語學 日本語作文
 諸官立學校 國語模範答案集 吉川秀雄編 五九 小中 三三 寶永館 〇五五 語學 日本語
 入學試験 國語模範答案集 吉川秀雄編 五九 小中 三三 寶永館 〇五五 語學 日本語
 明治四十年より大正五年に至る十ヶ年間の入學試験國語問題と模範答案とを集む。

國史叢書 關原軍記大成二 黒川眞道編 五九 小中 四九 國史研究會 一〇〇 歴史 日本歴史
 本書收むるところ原本卷十一より卷廿一に至る。
 今日本軍記文選 浦守謹編 五二〇 一中 五八 良書刊行會 三〇〇 文學 日本文學文集
 古今の日本軍記中より趣味多き名文數十篇を抜萃す。
 古錢價額年鑑 山邊久太郎編 再版 五九 一中 六六 前羽商店 〇八〇 美術 古錢
 古錢數百圖に鑄造年代、神武天皇紀元、大正五年より何年前なるや、標準價を記入す。
 雜木 最新家具製作法 下卷 木楡 恕一 五九 一大 四九 博文館 四三〇 工業 家具
 各種木材の彎曲法、薄板貼附法、寄木及象眼法、木工旋盤法等を説き進んで製作法各論に及ぶ。
 新農産罐詰及壘詰法 關虎雄編 五九 一中 六三 大倉書店 二二三 農業 壘詰
 罐詰及壘詰法の總論と製造各論に分ち詳細に説明せり。
 最新普通文官受驗準備全書 列任文官養成學會編 五九 小中 三三 三友堂 〇六五 法律 官吏登庸試験
 最新裁判所書記受驗準備全書 列任文官養成學會編 五九 小中 三三 三友堂 〇六五 法律 官吏登庸試験
 最近試験概況、程度、受驗資格、手續、試験問題及解答等を收む。
 受驗 三角法學び方考へ方と解き方 藤森良藏編 五版 五九 小中 二七 山海堂 〇六〇 數學 三角法
 豫備 著者の所謂系統的學び方を教へたるもの。
 シーガー氏經濟原論 米澤久五郎譯 五九 一中 六〇 敬文堂 三三〇 經濟 經濟
 原著者が大學々生の爲に講じたもの。
 自英文法研究 大島隆吉編 五九 小中 三三 日進堂 〇七五 語學 英語文典
 中等教科書を参照して解釋し、類例を多く引用せり。
 史説 史話 重田定一編 五二〇 一中 六四 弘道館 二〇〇 歴史 日本歴史
 帝陵私記、鳥形の齋瓶、國柄の古風、國分寺の廢址、正倉院、檳榔毛車の檳榔其他。

實際上 商用通信文 朝野書店編 五二〇 小中の 四三 朝野書店 〇五 商業 商業作文
往復せる 諸會社商店等の間に往復せる實例を集む。

△支那古田制の研究(法律學經濟學研究) 加藤 繁 五八 一中 三三 京都法學會(都京) 一〇〇 經濟 土地制度
周及其以前の土地制度を研究す。

支那 論山路 愛山 五二〇 小中の 三七 民友社 〇六 政治 支那
主として政治上より支那の近事を論じたもの。

自由思想史 大住 嘯風 五九 小中の 三九 天鼓堂 一三〇 哲學 哲學
自由思想の變遷を概括的に記述しカントに至りて筆を止む。

住宅設計圖案 佐藤功一編 五〇 小中の 一〇〇 大倉書店 三〇〇 工學 建築
報知新聞社に應募したるものに他のものを加へたる大小百圖。

縮書翰文講話及文範 杉谷虎藏編 五〇 小中の 一〇四 富山房 一五五 語學 日本語作文
縮刷と共に改訂せるところもあり。

手藝(家事文庫) 大妻 一惠 五〇 小中の 三〇 家事文庫刊行會 一五五 家事 手藝
袋物、摘細工、堀細工、編物、儀式用折紙水引等。

小學教育の新方向(小學教育實際叢書臨時増刊) 山松 鶴吉 五九 一中 三六 小學教育研究會 〇六 教育 初等教育
我が國の小學教育は將來如何なる方向に進むべきかを論ず。

諸官立 入學試驗問題解答詳解 家田 德仁編 五九 小中の 七七 芳流堂 〇八五 教育 入學試驗
大正五年年度の入學試驗問題を網羅す。

植物の構造と生殖 石川 光春 五九 小中の 三六 老鶴園 一〇〇 理學 植物學
植物の内部構造、生殖作用に伴ふ變化の有様を通俗的に記述す。

殺活 自在處 世 禪丸 山 小洋 五二〇 小中の 二六 啓興社 〇六 宗教 禪
反省内觀の價值、正道履踐の端的、勤勉努力の三昧、解脱超越の妙趣を述ぶ。

初等幾何學講義 第一卷 柳原 吉次 五二〇 一中 五五 山海堂 三三〇 數學 幾何學
るしえーこんぶるす初等幾何學第一卷の演習問題と其關係事項を收む。

新家庭 女子供の卷 巖谷 小波 五二〇 小中の 三七 大倉書店 〇六 家事 家事雜書
大正の新家庭、新しき女とは、開けた國は子供、子供と云ふもの等口演の筆記多し。

新式園藝寶典 第四 鈴木 爲次郎 五二〇 一中 八八 大阪屋號 〇六 諸藝 園藝
戰爭之部、布石之部、打碁之部に分ちて講述す。

中等學校 新式作文自在 龜山 與市 五九 小中の 一六 積文館 〇三 語學 日本語作文
入學準備 普通文及書翰文の準備上の心得と答案例を收む。

眞宗教と實生活 高楠 順次郎 再版 五二〇 小中の 三〇 無我山房 〇六 宗教 佛
佛敎と理想、理想と親鸞聖人、文明と宗教、婦人と宗教の四題目あり、某所に於ける講演の筆記。

人生の快樂 大内 青精 五九 小中の 四七 文昌堂 一三〇 倫理 修養
福壽、としのはじめ、餘慶、安心、好生、願、修進、淑徳、忠實、愛語の力其他十數題目あり。

△信用及擔保貸付論 深堂 宗助 五二〇 一中 一六 巖松堂 一三〇 經濟 金融
主として銀行の貸付方法、擔保品の價值注意等を論ず。

スボルチヨン説教集 栗原 基等譯 五二〇 小中の 三九 甲陽堂 〇六 宗教 基督教説教
説教數種を集め巻首に小傳を掲ぐ。

西洋史 眼木 村重治編 增補 五九 小中の 二四 六有朋堂 三〇 歴史 西洋歴史
高等專門學校用程度。

西洋 中 毒 遠藤吉三郎 五九 小中 五五二 西社 二〇三 社會日 本
 西洋に倣ふべからざることも多くあるを示す。
 西洋 哲 學 史 米、シルリ 一 中 八〇 目黒書店 三〇五 哲學 哲 學 史
 古代より現代に至る歐米各國の哲學思想を述ぶ。
 新 西洋品性論「一名品性論講話」 栗原 古城 譯 五九 一 小 五六 東 亞 堂 一〇〇 倫理 教 訓
 品性の力、家庭の力、仲間の感化其他を説く。
 戦後の 經濟 政策 服部文四郎編 五九 一 中 四〇 實 文 館 〇八五 經濟 經濟 政策
 救はれたる日本(天野爲之)戦後の生活問題(安部磯雄)戦時戦後の外國貿易(淺川榮次郎)其他。
 禪 窓 閑 話 菅 原 時 保 五九 小中 三六 大阪屋 號 〇七五 宗教 禪
 禪の一般を通俗平易に述べたるもの。
 △組 織 學 總 論 二村領次郎 四版 五九 一 中 三〇 金 原 商 店 二〇〇 醫學 組 織 學
 挿圖等を増加す。
 大 僧 正 天 海 須 藤 光 暉 五九 一 中 六〇 富 山 房 三〇三 傳記 天 海
 天海大僧正の傳記として最も詳密、正確なるもの。
 大 日 本 寺 院 總 覽 寺院總覽編輯局編 五九 一 中 七三 明 治 出 版 社 二〇〇 宗教 寺 院
 日本現存の各宗寺院全部七萬一千餘を網羅す。
 確 かな 商 賣 (プラチナ叢書 第二編) 秋山紅之助編 五二〇 小中 三六 長 久 社 二〇〇 商業 商 業
 急所に應ずる商賣の呼吸を説きしもの。
 田 中 式 豚 肉 調 理 法 田 中 安 五二〇 一 中 一五 東 京 出 版 社 〇八〇 家事 料 理
 調理法百種を収む、本料理法は大膳寮に於て度々供御に上りつゝありと云ふ。

短期 斷 食 療 法 と 其 實 效 宮 原 立 太 郎 五二〇 一 小 三四 廣 文 堂 〇七五 醫學 治 療
 實驗 斷 食 による諸病治療法を説く。
 △チ 氏 宗 教 學 原 論 和、チ 鈴木宗忠 譯 五九 一 中 四五 老 鶴 圃 二〇〇 宗教 宗 教 學
 宗教の發達と本質を論ず。
 中 英 作 文 自 修 提 徑 元 木 貞 雄 五九 小中 四三 文 盛 堂 二〇〇 語學 英語 作 文
 中學上級程度。
 中 學 校 入 學 試 驗 合 格 法 積、文 館 編 五九 一 中 一八〇 積 文 館 〇七五 教育 入 學 試 驗
 女學校、勸勉法、受験心得、模範答案等を掲ぐ。
 大 正 三 四 年 戰 役 忠 魂 錄 海 軍 水 交 社 編 五二〇 一 中 二四 春 陽 堂 二〇〇 兵 事 兵 事 史 傳
 海軍戰死者 大正三四年役に戦死又は公務の爲に歿れたる士官以上の人々の傳記。
 貯 金 の 出 來 る 生 活 法 (實 用 家 庭 叢 書 第 一 編) 東 京 家 政 研 究 會 編 三版 五九 小中 三六 東 京 家 政 研 究 會 〇七五 家 事 家 事
 實験談七十三種を収む。
 通 俗 經 濟 文 庫 第 三 卷 日 本 經 濟 叢 書 五九 小中 三六 日 本 經 濟 叢 書 行 會 二〇三 經濟 經 濟
 經濟商家見聞集、田畑重實記、渡世肝要記、家業相續、力草、貧福辨を収む。
 哲 學 五 流 辨 及 其 他 (縮 刷 名 著 叢 書 第 三 十 五 編) 桑 木 嚴 翼 五九 一 小 五二 東 亞 堂 一〇三 哲 學 哲 學
 主として舊著「性格と哲學」中の論文若干を訂正せるもの。
 徹 底 論 加 藤 咄 堂 五九 小中 三六 實 業 之 日 本 社 二〇〇 倫理 修 養
 徹底の精神、徹底と信仰、徹底と修養、徹底と處世を論ず。
 鐵 道 歐 米 巡 遊 記 笠 松 慎 太 郎 五九 小中 四三 會 東 洋 書 籍 出 版 協 會 一〇〇 交通 鐵 道
 見學 布 哇 鐵 道 視 察、桑 港 附 近 鐵 道 所 見、米 國 の 市 內 電 車、倫 敦 教 育 巴 里 迄、伯 林 以 上 羅 馬 迄 其 他。

英文法 獨逸文法書 權田保之助 五九 小中の 語學 獨逸語—文典
 對照 章節毎に英文法の法則及實例を對照せり。
 東京遊學案内 (大正六年度) 教育會編 五九 小中の 大 洋 堂 〇〇 教育學校案内
 東京の主なる學校の規則及入學試驗問題等を含む。
 東宮冊立史 箕輪治三郎 五二〇 一中 二六 大日本帝國壯丁 二五 政治典 禮
 立太子に關する古今の沿革、典禮を叙す。
 模範 日用名家の手紙 桑田春風編 五九 小中の 大倉書店 〇五 文學 日本語—作文
 實例 新年、祝賀、見舞、音問等に關する名家の手紙を集む。
 日蓮主義 義本多日生 五二〇 一小 六五 博文館 〇五 宗教 日蓮宗
 日蓮主義を根據とせる論文集。
 日蓮主義講話 小林一郎 五二〇 小中の 大 同 館 二五 宗教 日蓮宗
 日蓮聖人の教義を通俗的に述べ。
 日記 米、アートスミス 五九 小中の 三 新 橋 堂 〇〇 工學 飛行機
 著者の日本に於ける飛行記事及印象記を收む。
 日本偉人言行資料 先哲叢談 堀田球左右編 五二〇 小中の 三 國史研究會 二〇〇 傳記 傳記—日本人
 後編二 川上多助編 五二〇 一 三 國史研究會 二〇〇 傳記 傳記—日本人
 先哲叢談後編二と續編一を收む、原漢文を假名交り文に改めたり。
 日本氣候學 中川源三郎 五九 一中 四三 裳 華 房 三 理學 氣象學
 我國の氣候の一般を知らんとする初學者及應用する實際家の參考書。
 △日本行政法 第四卷 美濃部達吉 五九 一中 五 有 斐 關 三 政治行政法
 公企業法、公物法と其各論なり。

△日本刑法 分冊第一 牧野英一 五九 一中 三 有 斐 關 二〇〇 法律 刑法
 現行刑法を序列す、大正五年度東京帝國大學法科大學の講義なり。
 人間的な餘りに人間的な(全集一) 獨、ニイチエ 五二〇 小中の 五 新 潮 社 二 〇 文學 ニイチエ
 原著者は後に自ら此書を自由思想家の爲の書冊と云へり。
 俳人芭蕉 山崎藤吉 五九 一小 三 俳 書 堂 〇〇 文學 芭蕉
 芭蕉の史傳及其俳諧を研究す。
 芭蕉翁全集 (俳諧叢書 第七冊) 佐々木雪編 五九 一中 六 博 文 館 二 〇 文學 俳諧
 繪詞傳、泊船集、七部集、續七部集、七部拾遺等を收む。
 非水の圖案 杉浦非水 五二〇 一大 吾 星 文 館 四 〇 美術 圖案
 各種の圖案五十圖を收む、自然より學べるもの多しと。
 批評 論 稻毛詛風 五九 小中の 四 大 同 館 二 〇 文學 批評 論
 批評の意味と價值を論理的系統的に攻究す。
 平野國臣傳及遺稿 平野國臣顯彰會編 五二〇 一中 五 博 文 社 三 〇 傳記 平野國臣
 國臣の忠節を詳叙す、附録に其遺稿あり文章詩歌を多く蒐む。
 △物權法提要 第一冊 三 瀆 信 三 五九 一中 一 查 有 斐 關 〇 七 法律 民法
 著者が東京帝國大學等に於て爲したる講義より要項を採録す。
 米國々民性の新研究 鈴木牛三郎 五二〇 小中の 四 〇 洛 陽 堂 二 〇 地誌 米國
 米國民の特性、米國の婦人、家庭、政治、經濟、教化及人種問題等を論ず。
 難問 平面三角法要義 松村定次郎 五二〇 小中の 五 一 日 進 堂 〇 〇 數學 三角法
 高等學校の受験準備用。

法華經の行者日蓮 姉崎正治 五二〇 一中 三三 博文館 三〇三 宗教 日蓮

日蓮の研究。他日更に一層平易なる略本を出版すべしと云ふ。

本邦人口の現在及將來(通俗大學文) 高野岩三郎 五二〇 一小 一八 通俗大學會 〇三〇 經濟 人口

我國人口の現狀を述べ將來の改良方針に及ぶ。

マドロスの悲哀 米窪太刀雄 五二〇 一小 三四 中興館 一三〇 文學 海

美しき海洋文學。

萬葉集上卷(國文口譯叢書) 折口信夫 五九 一小 四六 文會堂 一〇五 文學 萬葉集

解釋平易、普通讀者の通讀に便なり。

萬有の神秘 栗原古城 譯 五九 一小 三九 玄黃社 一三〇 哲學 哲

正義の神秘、神秘の進化、物質の世界、過去、運の五論文を收む。

水戸學 高橋義雄 五二〇 一中 二四 華文社 〇〇 哲學 水戸學

義公を中心として所謂水戸學を論ず。

民法釋義 卷之二下 中島玉吉 五二〇 一中 六八 芳流堂 三〇〇 法律 民法

留置權、先取特權、質權及抵當權を論ず。

民法總論 集上(法政經濟叢書) 鳩山一郎 五九 一小 一五 巖松堂 〇〇 法律 民法

法律行為より時効までを講述す。

無過失損害賠償責任論 岡松參太郎 五二〇 一中 八〇 京都法學會(京都) 三〇〇 法律 民法

法律學經濟學研究叢書の第十八冊なり。

模範小賣店の組織 佐々木十九 五九 一小 三三 二松堂 〇〇 商業 商店

現金賣、賣殘商品の處分法、通信販賣、商品目錄及廣告印刷物、客引策等を述べ。

山羊の飼育(子安叢書) 久保健勝 五八 一小 一〇 子安農園(神奈川) 〇三 農業 山羊

簡明に山羊の飼育法を説く。

山路愛山講演集 第二編 山路愛山 五二〇 一小 一六 大江書房 〇〇 文學 演説

源氏物語を読む、修養論、近世文明の淵源、西郷隆盛の四講演を收む。

ラソンニング 明石和衛 五九 一小 三三 菊屋 〇〇 諸藝 鼓走

金栗氏は長距離競走練習法を、明石氏は短距離中距離競走練習法を述べたり。

蘭領印度殖民史 佐藤四郎 五八 一中 九 東京堂 〇〇 經濟 蘭領東印度

蘭領印度殖民の歴史と現況を簡単に述べ。

琉球語便覽 糖業研究會編 五九 一小 一七 丸善 〇〇 語學 琉球語

明治十三年沖繩縣廳にて編纂せる沖繩對話を骨子とす。

琉球の五偉人 伊波普猷 五七 一小 三六 小澤書店(沖繩) 一四〇 傳記 琉球史傳

政治家羽地朝秀、貝志頭温、宜灣朝保、教育家名護順則、産業家儀間眞常五偉人の傳記。

陸軍現役將校實役停年名簿 陸軍省編 五八 一中 一七 五小林又七 一〇〇 兵事 陸軍

大正五年七月一日調。

陸軍豫備役後備役停年名簿 陸軍省編 五九 一中 一八 六三秀舎 一〇五 兵事 陸軍

大正五年七月一日現在。

立體派及び後期印象派(美術叢書) 米、エツ、デ、イ 五九 一小 二〇 向陵社 一〇五 美術 美術

後期印象派運動を叙述す。

立儲要義 牛塚虎太郎 五九 一中 一三 博文館 〇〇 政治 典禮

皇位繼承の大義を述べ、立太子式の儀禮に就き其綱要を示す。

冷汗	著者の文集。	記大町桂月	五九	一小	三八	富山房	〇五	文學	日本文學	文集
露西亞紀行	西田博太郎	五九	一小	三六	日本工業通信社	〇五	地誌	露西亞		
論語と算盤	(縮刷名著叢書 第三十七編) 澁澤榮一	五九	一小	四九	東亞堂	一〇〇	倫理	教訓		
仁義と殖利とは相容れざるものに非ずとの主旨の訓話を多く集む。										
△ワオードの社會學	米、ワオード	五九	一中	五六	巖松堂	一〇	社會	社會學		
社會學の範圍、其科學的基礎、原理原則、目的等を叙述す。										
我が宗教	(トルストイ叢書 第一編) 生田長江	五九	一小	三三	新潮社	〇七〇	宗教	基督教		
ト翁の解釋したる耶穌教。										
和古錢	通未脱銅泉齋編	五二	一小	三四	朝陽會	〇四〇	美術	古錢		
日本支那等の歴史、古錢を集め、時價を詳記せり。										
和譯妙法蓮華經	佛教普及會編	五九	一小	七六	良書刊行會	一〇	宗教	佛教	經典	
註解										
上部に日蓮聖人の遺文を引用す。										

第二 幼年書類

修身繪噺第二集	(教育子供 繪噺の内) 信生堂編	五九	小中の	二三	信生堂	〇二五				
伽五學年上	藤川淡水	五九	小中の	一七	敬文館	〇三〇				

正少年傑作文	秋の巻 葛原 繭編	五〇	小中の	一九	文正堂	〇三〇				
幼年十ヶ月讀本	幼年世界編輯部編	五〇	一中	一〇〇	博文館	〇三五				
幼年お話し話の庫	秋の巻 少年通俗教育會編	五〇	一小	五〇	博文館	〇三五				
我が陸軍	(教育子供繪噺 第三十七編) 信生堂編	五〇	小中の	三	信生堂	〇二五				

第三 小説及劇

愛の奇蹟	露、クイブリン 三浦關造譯	五九	小中の	一九	山田書店	〇八五				
縮赤穂義士四十七士傳	桃川 燕林 再版	五〇	一小	一七	淡海堂	一八〇				
憂さ	柳川 春葉 再版	五九	小中の	六〇	實業之日本社	一〇〇				
脚アンナ・カレニナ	佛、ギユロイ 松居 松葉譯	五九	一小	三五	新潮社	〇七〇				
新インツプ物語	(模範家庭文庫 第四編) 楠山 正雄譯	五九	一中	四四	富山房	二二〇				
全戰爭と平和	(縮刷全譯叢書 第五編) 露、トルストイ 米川 正夫譯	五九	一小	六三	新潮社	〇七五				
若旦那の兵隊さん	たまむし生編	五九	一小	四八	松陽堂	〇三五				

大正五年十一月十八日印刷納本 東京市四谷區谷町一丁目拾八番地 東京市神田區美土代町貳丁目壹番地
 大正五年十一月二十日發行 編輯兼發行者 東京市神田區美土代町貳丁目壹番地 日比谷圖書館內
 印刷 東京市神田區美土代町貳丁目壹番地 日比谷圖書館內
 郵税不要 (一ヶ年前金壹圓郵税不要)

繪入訓話 大町芳衛 五九 一小 五〇 富山房 〇五 倫理教訓
 主として通俗的の訓話を集む。
 歐米の社會と日本の社會 小林照朗 五二 一中 五六 日本學術普及會 一五 社會社會
 著者日本之社會に歐米社會の視察記を加ふ。
 奧樣園藝十二箇月上卷 千葉胤一 五二 小中 三八 三和堂 〇八五 農業園藝
 十月より翌年三月に至る園藝を述ぶ。
 覺え算術の解き方 岡田昇一 五二 小中 二七 正文堂 〇五五 數學算術
 說明平易。
 學生論 奥田義人 五二 小中 二六 實業之日本社 〇八五 倫理修養
 學生の教訓、修養となるべき事項を集む。
 瓦斯及其副産物工業 下卷 栗原鑑司 五二 一中 四三 丸善 三七五 工業瓦斯工業
 本卷は副産物及び工業瓦斯編なり。
 ガソリン發動機點火法 奥泉欽次郎 五二 一小 五九 極東書院 三三〇 工學發動機
 點火装置の電壓、高壓點火の装置、高壓點火に用ゆる磁石發動機其他。
 家庭看護の栞 吉岡彌生 五二 小中 四三 華文社 一三〇 醫學看護法
 實用を旨とし平易に家庭の看護法を述べたり。
 家庭の王國 三好甫 五二 小中 三三 靜思館 〇七五 家事家庭
 人生の幸福は最樂の家庭にある所以を論ず。
 神尾式速算法 神尾錠吉 五二 一中 一七 南北社 一〇〇 數學算術
 算盤に依らざる速算法。

應用簡易電氣玩具の製作法 帝國電氣學協會編 五二 小中 一三 修學社 〇五 工業玩具
 中學初年級程度の人にも理解し得るやうに説明せり。
 △機構 學丹波重光 五二 一中 四三 丸善 三三〇 工學機械工學
 機械各部の動き方を研究す。
 強者の天地 仲小路廉 五二 小中 三九 實業之日本社 一〇〇 隨筆隨筆
 雜誌又は口演より強者主義に關係あるものを集む。
 行政法大綱 野村信孝 五二 一中 二九 有斐閣 一五 政治行政法
 初學者の爲に行政法理の一斑を講ず。
 △改訂銀 行 論 堀江歸一 五二 一中 四九 同文館 三三〇 經濟銀行
 米國聯邦準備金法の制定、歐洲交戰國中央銀行に關する立法の改正等を改訂す。
 近世立志篇 稻村修道 五二 小中 三〇 文陽堂 〇八五 倫理教訓
 主として地方青年の爲めになせる教訓的講演集。
 句評及俳話 内藤鳴雪 五二 一中 三八 雲泉堂 〇七五 文學俳諧
 宗鑑より其角に至る句評と俳句の意義、要訣、綱領とを述ぶ。
 △群書索引 第一冊 物集 高見五二 一大 三二 廣文庫刊行會 八〇〇 書目書目
 事物の出所を一々古書を調べて列記せるもの。
 △慶長以來書 覽 井上和雄編 五九 一中 二五 雲文堂 一〇〇 書目書目
 慶應年間までの三郡に於ける書肆の住所姓名、發行書名等を収録す。
 現代少女と其教育 沼田笠峯 五二 小中 二六 同文館 〇七五 教育女子教育
 形式的、模倣的教育を排す。

現代女子作文 内山 舜 五二 一 中 四三 博育堂 一四〇 語學 日本語作文
 女子文章の作り方を述べ、書翰文、論説文等の實例を擧ぐ。
 現代の亞米利加 (時事叢書) 原口 竹次郎 五二 一 小中 一三 富山房 〇三 地誌 米 國
 現代亞米利加の長所短所を研究す。
 現代の歴史を造る人々 鶴崎 鷺城 五二〇 小中 一七〇 實業之日本社 〇六 歴史傳記—人物評
 獨逸の戴冠皇子、數寄なる白耳義國王、希臘のウエニセロス氏其他の人物評論。
 工業 金 融 論 松 崎 壽 五二 一 小中 四八 隆文館 一三〇 工業 工業 經濟
 工業金融の方法、其機關等を論述す。
 △工業 數 學 深井 宗吉 五二 一 中 六三 老鶴園 三〇〇 工業 工業 數學
 微分方程式の一般、其工業上の應用を述べ。
 公 債 要 論 田 中 穂 積 五二 一 中 一八六 寶文館 〇〇 財政 公 債
 公債の沿革、定義、本質、種類等を論ず、舊著を改造したるもの。
 廣 文 庫 第二冊 物 集 高 見 五二 一 大 二〇八 廣文庫刊行會 七五 事業 事 業
 あめよりいぬゐに至る。
 聲 (大正名著文庫) 村 井 知 至 五二 一 小中 三九 至 誠 堂 一三〇 隨筆 隨 筆
 雜誌「道」其他に載せたる隨筆を集む。
 國 史 叢 書 關原軍記大成三 黒川 眞道 編 五二 一 小中 四三 國史研究會 一〇〇 歴史 關ヶ原 役
 原本卷二十二より卷三十二に至る。
 國 文 解 釋 法 塚 本 哲 三 五二 一 小 五五 有 朋 堂 〇七五 語學 日 本 語
 國文解釋上の心得、受験の注意等を總説篇とし外に解釋篇、文法篇あり。

心得て居ら 社 交 禮 法 別 府 熊 吉 五二 一 小中 二五 實業之日本社 〇六 社會 社 交
 ねばならぬ。公私の集會等に於ける禮儀作法の心得を詳述す。
 コナン ト 氏 銀 行 論 米、チヤイレス 高島 誠一 譯 五二 一 中 五〇 隆 文 館 三五 經濟 銀 行
 銀行の本質及運用の真相を力説す。
 湖 畔 の 落 人 太 田 正 孝 五二 一 小中 三六 啓 成 社 〇五 地誌 英國—紀 行
 主として著者が戦禍を曲湖に避けたる前後の感想を述べ。
 △最新 機 化 學 下 篇 吉 田 彦 六 郎 五九 一 中 一〇六 金 港 堂 三五 理學 化 學
 芳香屬化合物、アミノ化合物及其性質、チアアノ化合物。フェノール類、芳香酸類等を説明す。
 財 政 と 金 融 田 尻 稻 次 郎 五九 一 中 二七〇 同 文 館 五〇〇 經濟 金 融
 廿七版に多小訂正増補す。
 茶 話 薄 田 泣 菫 五二 一 小 二五 洛 陽 堂 〇六 隨筆 隨 筆
 雜談集。
 自家用發電所設備工事法前編 林 範 二 五二 一 中 五三 電 陽 社 一六〇 工業 電氣 工業
 發電機と其運轉を附す。
 自 警 新 渡 戸 稻 造 五二 一 中 四六 實業之日本社 一七〇 倫理 教 訓
 日日の心得、平生の戒となるべき通俗的の教訓集。
 死 後 の 生 命 伊、ロンテ、ロイヤ 中村 古峽 譯 五二 一 小中 三一 老 鶴 園 一三〇 哲學 心 理 學
 催眠及心靈現象の研究を譯したるもの。
 修リ—ダー 研究 第五卷 正則英語研究會編 五二 一 小中 四七 日 進 堂 〇九 語學 英語—讀 本
 神田、井上、中西、岡倉の各リ—ダーを解釋す。

市町村名辭典 杉野耕三郎編 五〇 小中の 三六博文館 三〇〇 地誌 日本地名字書

實用藥草栽培法(栽培全書) 第三編 藥草研究會編 五〇 小中の 三七長久社 〇四八 農業藥草

弱者の爲に(大正名著文庫) 第二十六編 杉村廣太郎編 五二 小中の 四四至誠堂 一三〇 隨筆隨筆

少尉になるまで 中島武 五〇 一小 三〇畫報社 〇五五 兵事海軍

小資本でどうすれば儲かるか 清水正己 五〇 一小 三〇八 佐藤出版部 〇四〇 商業商業

常磐炭鑛誌 岡田武雄編 五〇 一中 三七帝國新報社 三〇五 工業炭鑛

植物の遺傳と變異 永井威三郎編 五九 一中 四〇隆文館 三〇四 理學植物學

叙景文練習法(文藝練習法) 金子薰園編 五〇 小中の 一八新潮社 〇三三 語學 日本語作文

新作詩自在 井土靈山編 五二 小中の 七〇〇 二松堂 一〇六 文學漢詩

新譯徒然草 吉田兼好編 五二 小中の 三四阿蘭陀書房 〇五五 文學徒然筆

力めて遂語譯の法を取りたりと云ふ。

△森林土木工學全書 第三卷 石丸文雄編 五〇 一中 〇〇〇 丸善 四〇五 農業山林道、橋梁及森林鐵道編なり。

政治汎論(新早稻田叢書の内) 米、ウイイルソン 増訂 五二 二中 二四六 早稻田大學 四〇六 政治政治學の全般に亘りて學理と實際を詳論す。

精神科學の基本問題(哲學叢書) 上野直昭編 五〇 小中の 三四岩波書店 二〇三 哲學哲學 ウキルヘルム、ウントの所説を平易に述べたるもの。

生命の一路 昨上賢造編 五二 小中の 五四洛陽堂 一〇四 宗教基督教 一たび雜誌聖書の研究に掲げられたる短文を集む。

△生命保險數理一斑 中村喜代治編 五九 小中の 三〇九 保險新聞社 二〇〇 經濟生命保險通俗的に保險數理の原則を解説す。

西洋上古史 村川堅固編 五九 一中 四九寶文館 三〇六 歴史西洋歴史 エジプトの建國時代より西ローマ帝國の滅亡に至る。

世界大戰と日本の海運(時事叢書) 今岡純一郎編 五二 小中の 二六富山房 〇三三 交通運輸 我海運の現状を述べ擴張の必要を論ず。

禪宗聖典 續篇 神保如天編 五〇 一小 一五六 無我山房 三〇〇 宗教禪 大般若經、維摩詰所說經、正法眼藏、傳光錄等を收む。

戰爭乎平和乎 原口竹次郎編 五〇 小中の 三六同文館 二〇三 社會平和問題 戰爭の害毒、利益、平和運動の現勢等を論ず。

宗演禪話 宗演編 五〇 小中の 三七榮文館 〇六〇 宗教禪 著者の禪に關する雜感を集む。

村 莊 小 言 澁 澤 榮 一 五二〇 小の 五九 實業之世界社 二五 倫理 修養、處世、實業、青年、政治、國交、人物等に關する著者の談話を編む。

大正の青年と帝國の前途 徳 富 蘇 峰 五二〇 一 中 六〇 民 友 社 三〇 文學 論 說 舊著將來之日本、新日本之青年を根本的に改作したるもの。

代數學研究と受験新法 松岡 文太郎編 五二〇 小の 四〇 文 魁 堂 〇八五 數學 代 數 學 先づ代數學研究の方法と受験の秘訣を述べて本題に入る。

大 戰 外 交 史 長 岡 春 一 五二〇 一 中 四〇 外 文 時 報 社 三〇 政治 外 文—歐 洲 戰 亂 歐洲大戰前後に於ける列國折衝の梗概を叙す。

大日本國語辭典 第二卷 上 田 萬 年 五版 一 大 二二 富 山 房 七〇〇 語 學 日 本 語—字 書 小 井 簡 治 五二〇 二 小 三三 佐 藤 出 版 部 〇四 數 學 珠 算 五十日珠算自由自在 石 井 研 堂 五二〇 一 小 三三 佐 藤 出 版 部 〇四 數 學 珠 算 親切に珠算の獨修法を教ゆ。

通 俗 教 養 訓 話 足 立 栗 園 五二〇 一 中 三九 明 誠 館 一〇〇 倫 理 修 養 家庭の教養に關する通俗講話を集む。

帝 國 南 進 策 副 島 八 十 六 五二〇 小の 三六 民 友 社 一〇〇 經 濟 移 民 主として印度南洋方面への殖民政策を論ず。

最新帝國陸軍の内容 寺 田 幸 五 郎 再版 小の 二六 武 藝 社 〇八 兵 事 陸 軍 詳解の一斑を平易に解説す。

△内 燃 電 氣 着 火 裝 置 金 子 五 郎 五二〇 一 中 一六 大 日 本 工 業 學 會 一〇〇 工 學 電 氣 工 學 電氣着火装置の原理、構造、性質等を平易に解説す。

獨 逸 語 研 究 上 卷 橋 本 忠 夫 五二〇 一 中 二六 南 江 堂 〇八 語 學 獨 逸 語—文 典 獨逸語初學者の教科用並に獨習用。

△土 壤 學 講 義 上 卷 大 工 原 銀 太 郎 五二〇 一 中 一三 豐 榮 華 房 三〇 農 業 土 壤 土壤の性質を研究したるもの、大日本地質略圖を附す。

ド ス ト イ エ フ ス キ イ 新 城 和 一 五二〇 小の 三四 洛 陽 堂 一〇 文 學 傳 記 キー ド ス ト イ エ フ ス 評傳。

度 量 衡 要 義 上 卷 總 亨 五二〇 一 中 二〇 警 眼 社 一〇 產 業 度 量 衡 我國度量衡の由來、應用上の原理及歐米の關係法制等を述ぶ。

日 本 教 育 行 政 法 論 (教 育 講 座 第 十 編) 武 部 欽 一 五二〇 一 小 四三 日 本 學 術 普 及 會 〇〇 教 育 教 育 行 政 教育行政機關、學校、學校衛生等を論ず。

日 本 近 世 史 第 一 卷 社 會 分 裂 の 時 代 中 村 孝 也 五二〇 一 中 三三 育 英 書 院 一五 歷 史 日 本 歷 史 葡萄牙人の初來より安土時代の世相に至るまでを評論す、行文雄健。

日 本 交 通 史 論 日 本 歷 史 地 理 學 會 編 五二〇 一 中 六八 日 本 學 術 普 及 會 三〇 歷 史 日 本 歷 史 藤田明氏の遺稿日本交通史論を主とす。

△日 本 國 際 私 法 論 分 冊 第 一 山 口 弘 一 改 版 一 中 二五 巖 松 堂 一三〇 法 律 國 際 法 國際私法の定義、沿革及國際民法等を述ぶ。

日 本 全 史 矢 野 道 雄 五九 二 中 二五 新 時 代 社 六〇 歷 史 日 本 歷 史 太古より大正五年七月に至る。全編振假名付

能 狂 言 之 研 究 野 村 八 良 五二 一 小 一四 光 風 館 〇五 諸 藝 能 國文學史の方面より能狂言を研究す。

最新式佛蘭西語獨修 賀川 哲夫 再版 五二 小の 一五 寶文館 一五 語學佛蘭西語
 實際的佛蘭西語 賀川 哲夫 再版 五二 小の 一五 寶文館 一五 語學佛蘭西語
 再版に於ては發音編の講述順序等を新にしたり。
 文 展 十 年 (美術叢書) 青木 小四郎編 五二〇 小の 一元 美術叢書刊行會 〇七 美術美
 十年間の重なる圖録と審査員及秀逸作品の目錄を兼ねぬ。
 平 凡 道 徳 棟 居 喜 九 馬 二版 五二 小の 一三 丁未出版社 〇五 倫理教 訓
 何人にも容易に實行し得べき平凡道徳を説く。
 放 浪 漫 記 大 谷 光 瑞 五二〇 一中 四九 民友社 三〇〇 地誌 印度一紀行
 印度方面の紀行記。
 萬 葉 集 新 釋 卷 一 豊田 八千代 五二 一中 三〇 廣文堂 一〇 文學 萬葉集
 解釋は簡明を旨とす。
 有用鑛物の産地及用途 吉村 萬治編 五二〇 小の 三五 丸 善 一 吾 理學 鑛物 學
 今泉 敏 編 五二〇 小の 三五 丸 善 一 吾 理學 鑛物 學
 實用金屬及非金屬鑛物に就きて其用途、産地其他の必要なる事項を述ぶ。
 雪 まろ げ (俳諧名著文庫) 河 合 曾 良 五二 小の 一三 俳 書 堂 〇 吾 文學 俳 諧
 芭蕉の奥の細道を附す。
 立 憲 國 民 教 本 土 屋 良 遼 五二〇 一中 一六 寶 文 館 〇 五 教育 國民教育
 尋常小學校卒業程度。
 立 志 訓 村 上 專 精 五二〇 小の 四六 廣 文 堂 一 四 倫理 修 養
 立志に關係ある講演數篇を集む。
 靈魂信仰と祖先崇拜 (心理叢書) 桑 田 芳 藏 五二 小の 一六 心理學研究會 〇 七 哲學 心 理 學
 民族心理學的研究なり。

レオナルド (繪畫叢書) 第三編 木村 莊 八編 五二〇 小の 一三 洛 陽 堂 一〇〇 美術 レオナルド
 レオナルド及ゴッソキオの評傳。
 和 文 英 釋 十 講 佐 久 間 信 恭 再版 五二〇 小の 三六 郁 文 堂 〇 四 語學 英語—和文英譯
 英文の構成並に英語の辭句の活用法等を説明す。
 我等何を信ずべきか 露、トルストイ 五二 小の 五六 洛 陽 堂 一 吾 宗教 基 督 教
 加藤 一夫 譯 五二 小の 五六 洛 陽 堂 一 吾 宗教 基 督 教
 我何を信ずるや、宗教とは何ぞやの二書を譯す。

第二 幼年書類

書名	著者	發行年月	冊數	頁數	發行所	定價	分類	件名
幼年繪本	幼年世界編輯部編	五二	一中	一〇〇	博文館	〇一五	繪本	幼年繪本
小學五	お伽研究會編	五二〇	小の	二七	中村書店	〇五	小學	お伽研究會編
小學六	お伽研究會編	五二〇	小の	二七	中村書店	〇五	小學	お伽研究會編
新お伽全集	お伽會編	五二	小の	二四	東盛堂	〇三五	新	お伽會編
波新お伽百話	巖谷 小波	五二	小の	八〇	博文館	一八〇	波新	巖谷 小波

第三 小説及劇

317
80

終